

| | | | |
|--|------------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：日本史概説 | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：金耿昊 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本の歴史を（１）東アジアとの関係（２）現在の新潟県地域という視角からとらえなおす講義をします。『大学でまなぶ日本の歴史』を基本としながら、原始・古代／中世／近世／近代・現代の日本列島の歴史をみていきます。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>講義ではおおよそ１回の授業で３章ずつすすめ、テキストの内容を紹介したうえで、冒頭に挙げた２つの視角からそれをとらえなおしていくことを目指しています。そのことを通して、日本の歴史とはどういうものなのか、古代・中世・近代・現代とはどのような意味で時期区分がなされているのか、といったことを考えていければと思います。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第１回：オリエンテーションー日本の歴史とは、何か？ー</p> <p>第２回：原始・古代１：１～２章</p> <p>第３回：原始・古代２：３～５章</p> <p>第４回：原始・古代３：６～８章</p> <p>第５回：中世１：９～１１章</p> <p>第６回：中世２：１２～１４章</p> <p>第７回：中世３：１５～１７章</p> <p>第８回：近世１：１８～２０章</p> <p>第９回：近世２：２２～２３章</p> <p>第１０回：近世３：２４～２６章</p> <p>第１１回：近代・現代１：２７～２９章</p> <p>第１２回：近代・現代２：３０～３３章</p> <p>第１３回：近代・現代３：３４～３６章</p> <p>第１４回：近代・現代４：３７～３９章</p> <p>第１５回：近代・現代５：４０～４１章</p> <p>定期試験</p> | | | |

テキスト

木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治編『大学でまなぶ日本の歴史』吉川弘文館、2016年

参考書・参考資料等

田中圭一・桑原正史・安倍洋輔・金子達・中村義隆・本間恂一『新潟県の歴史』山川出版社、1998年、岩城卓二・上島享・河西秀哉・塩出浩之・谷川譲・告井幸男『論点・日本史学』ミネルヴァ書房、2022年

学生に対する評価

各回の感想・疑問点等の提出および、学期末の論述試験により評価する。

| | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：歴史学 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：金耿昊 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>歴史学とは何を解明する学問であるのか、そして、どのように研究をおこなうのかということを理解することを目標とします。歴史学は過去にあった事実は何かを真摯に考え、そこから現在のあり方を見直していく学問です。しかし、そうであるからこそ、史実とは何か、そこに研究者の問題意識や願望の投影となっていないかが厳しく問われます。歴史学の歴史（史学史）のなかで、この点をめぐってどのような議論があったのかをたどりましょう。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>テキスト『市民のための歴史学』をおおむね1章ずつ紹介し、その意味するところを解説していきます。歴史学は過去を「ありのまま」にみることを志向しますが、常に「誰がどのような立場から歴史を見るのか」が問われてきました。そのなかでどのような視点が生まれてきたのかを一緒にみていくことができればと思います。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：1. オリエンテーション／序章</p> <p>第2回：第1章：歴史学は何をどう問題にしてきたか、こなかったか？</p> <p>第3回：第2章：史料（資料・史資料）とはなにか</p> <p>第4回：第3章：時間の認識と時代の区分</p> <p>第5回：第4章：ローカルな歴史とグローバルな歴史</p> <p>第6回：第5章：環境と人類、技術と科学の歴史</p> <p>第7回：第6章：暮らしと経済の歴史</p> <p>第8回：第7章：政治と外交、権力と反抗の歴史</p> <p>第9回：第8章：戦争・平和と軍事の歴史</p> <p>第10回：第9章：法と秩序・制度の歴史</p> <p>第11回：第10章：社会と共同体・公共性の歴史</p> <p>第12回：第11書：ジェンダーの歴史、家族の歴史</p> <p>第13回：第12章：文化・芸術・思想と情報・メディアの歴史</p> | | | |

第14回：第13章：歴史と記憶、歴史と現在

第15回：まとめ／終章

定期試験

テキスト

桃木至朗『市民のための歴史学』大阪大学出版会、2022年

参考書・参考資料等

永原慶二『20世紀日本の歴史学』吉川弘文館、2004年

学生に対する評価

各回の感想・疑問点等の提出および、学期末の論述試験により評価する。

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------------|-------------------------------|
| 授業科目名： 考古学1 | 教員の免許状取得のための 中学校 選択科目 高等学校 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 木島 勉 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 テーマ：考古学とは・日本考古学の概説 | | | |
| 目標：考古学とはどのような学問で、歴史復元にどのような役割を担っているかを理解する | | | |
| 授業の概要 ヒトが残した物的証拠であるモノによってヒトの営みを復元する考古学の、研究史、調査・研究方法、関係する法令や行政との関り、考古学の成果を概説し、日本の歴史の理解を深める。 | | | |
| 授業計画 第1回：考古学とはどういった学問か。研究の対象や方法論等のアウトラインを概説します。 第2回：考古学の基礎を築いた研究者を紹介しながら日本の考古学研究の歩みをたどります。 第3回：考古学の基本的な研究法である分類学、型式学、層位学等を紹介、解説します。 第4回：考古学の基本となる遺跡の発掘調査がどのように行われるかを紹介、解説します。 第5回：遺跡は埋蔵文化財として文化財保護法で保護されている。その法令と取扱いを解説します。 第6回：考古学的調査で検出される多様なモノの検証に必須な関連諸科学を紹介、解説します。 第7回：考古学の調査成果はどのように記録、保存されて公開されるのかを紹介します。 第8回：日本列島にヒトが住み始めた旧石器時代の遺跡や遺物とその時代区分を解説します。 第9回：1万年に及ぶ縄文時代を概説し、生活や信仰などの実態を解説します。 第10回：稲作や金属器をはじめとする大陸や半島からの影響を受けた弥生時代を解説します。 第11回：古墳時代を概説し、古墳とはどのようなもので、ヤマト王権と地方の関係を解説します。 第12回：中央集権国家が成立した古代を概説し、地方支配と庶民の生活の実態を紹介します。 第13回：武士が躍進した中世を概説し、その拠点となった城、館の様相などを解説します。 第14回：戦乱が終結した江戸時代を概説し、城やその城下における生活の実態を解説します。 第15回：博物館や資料館に展示されている考古遺物を見学し、その観察ポイントを解説します。 定期試験：期末試験 | | | |
| テキスト 特に教科書等はいらず、配布資料とスライド等の映像で理解を深めます。 | | | |
| 参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |

試験（70%）、課題等（30%）で総合的に評価する。

| | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|-------------------------------|
| 授業科目名： 考古学2 | 教員の免許状取得のための 中学校 選択科目 高等学校 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 木島 勉 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 テーマ：考古学による歴史復元 | | | |
| 目標：考古学による歴史復元の事例を解説して考古学の理解を深める | | | |
| 授業の概要 考古学の調査・研究による歴史復元や地域史研究の事例をいくつか取り上げ、その調査の経過、成果、問題点、展望等の検討・整理をとおして考古学の理解を深める。 | | | |
| 授業計画 第1回：大地に刻まれたヒトの生活の痕跡（遺跡・遺構・遺物）を分類、整理して解説する。 第2回：各時代の集落跡の立地とその構造等を紹介、解説する。 第3回：先史・古代の住居や倉庫などの建物跡から当時の生活の一端を紹介、解説する。 第4回：先史・古代の焼き物の製作技術とその変遷を紹介、解説する。 第5回：縄文時代1万年間の縄文土器のスタイルと文様その変遷や地域性を解説する。 第6回：多様な石器を概観してその機能や形態的な特徴を紹介、解説する。 第7回：祭祀具や用途不明の遺物から先史・古代人の精神性を紹介、解説する。 第8回：新潟県の上・忠・下越地方の縄文時代の遺跡を事例としてその地域性を紹介、解説する。 第9回：地表で観察できる遺構・遺物から復元できる歴史を紹介、解説する。 第10回：出土した木製品や部材などから解る生活の一端を紹介、解説する。 第11回：出土した金属製品などから解る生活の一端を紹介、解説する。 第12回：ヒトは食べ物をどのように調達し、どのように調理していたのかを紹介、解説する。 第13回：遺跡で確認できる災害の痕跡を紹介し、災害史解明における考古学の役割を解説する。 第14回：威信財・護符等として用いられた装身具の変遷を紹介、解説する。 第15回：古典に記された事項を検証する手法としての考古学の広がり解説する。 定期試験：期末試験 | | | |
| テキスト 特に教科書等はいらず、配布資料とスライド等の映像で理解を深めます。 | | | |
| 参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |

試験（70%）、課題等（30%）で総合的に評価する。

| | | | |
|---|--|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 科学史 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 西村 秀雄 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科および教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「科学史 1・2」は、西欧近代科学技術史の概要を把握するだけでなく、科学技術と社会が相互に与え合ってきた影響を歴史的、学際的な視点から理解し、一市民として科学技術と現代社会の関係をどう考え、またどのように行動すべきか、論理的で批判的な意見を持つことができるようになることを到達目標とする。なお前期の「科学史 1」では、コミックおよびアニメ「チ。一地球の運動について一を手掛かりにして、科学史の考え方、天文学を中心とした比較的古い科学、歴史的概観（要旨）、および科学と宗教（キリスト教）の関係を考察する</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>「科学史 1・2」では、西欧近代科学技術の歴史を、それを生み出した西欧の思想や文化、社会との相互連関の中で考察する。また科学技術が近代・現代社会に与える影響の大きさについても考察する。「科学史 1」では、コミックおよびアニメ「チ。一地球の運動について一を手掛かりにして、歴史および科学の考え方、天文学を中心とした比較的古い科学、歴史的概観（要旨）、そして科学と宗教（キリスト教）との関係を取り扱う。</p> <p>「科学史 1・2」履修を通じて、本学の建学の精神に掲げられた、国際的な視野で考える能力を育成する。また現代社会について歴史的、学際的観点から再考することによって、人々に仕え、社会に貢献する能力を育成する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに（現代社会において科学技術が果たす役割と科学史）</p> <p>第2回：はじめに（科学史の研究方法）</p> <p>第3回：天文学史（古代ギリシアでの考え方）</p> <p>第4回：天文学史（アラビアの天文学・ヨーロッパ中世の宇宙観）</p> <p>第5回：天文学史（コペルニクスの太陽中心説（離心円と周転円））</p> <p>第6回：天文学史（コペルニクスの太陽中心説（宇宙全体の構造））</p> <p>第7回：天文学史（ケプラーの宇宙観）</p> <p>第8回：天文学史（ガリレオによる望遠鏡を用いた天体観測）</p> <p>第9回：天文学史（天体力学の成立）</p> | | | |

第10回：歴史的な概観（時代区分について・古代学術の伝統）
第11回：歴史的な概観（「12世紀ルネサンス」とスコラ学の成立）
第12回：歴史的な概観（大学の成立、製紙術と印刷術が与えた影響）
第13回：歴史的な概観（プラトン主義の復活・科学革命とキリスト教）
第14回：歴史的な概観（神の棚上げと科学の制度化）
第15回：現代と科学技術の歴史

定期試験

テキスト

使用しない。書き込み式の資料を配布する。

参考書・参考資料等

講義内で適宜、本学図書館が所蔵する参考図書を紹介する。また稀^{きこう}観本を回覧する。

学生に対する評価

最終回の試験で評価する。毎回出席を確認し、出席率2/3未満の者には試験の受験を認めない。各回の講義内容について質問がある場合は講義内ないしは休憩時間中に申し出ること。最終回に実施する試験の評価に異議申し立てがある場合、あるいはコメントを求める場合は教務課を通じて連絡すること。

| | | | |
|--|--|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 科学史 2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 西村 秀雄 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科および教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「科学史 1・2」は、西欧近代科学技術史の概要を把握するだけでなく、科学技術と社会が相互に与え合ってきた影響を歴史的、学際的な視点から理解し、一市民として科学技術と現代社会の関係をどう考え、またどのように行動すべきか、論理的で批判的な意見を持つことができるようになることを到達目標とする。後期の「科学史 2」では歴史的概観、物理学史、化学史、生物学史、18・19世紀における科学と技術の変質、そして現代社会における科学技術他について考察する。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>「科学史 1・2」では、西欧近代科学技術の歴史を、それを生み出した西欧の思想や文化、社会との相互連関の中で考察する。また科学技術が近代・現代社会に与える影響の大きさについても考察する。後期の「科学史 2」では歴史的概観、物理学史、化学史、生物学史、18・19世紀における科学と技術の変質、明治期日本の近代科学受容、そして現代社会における科学技術を取り扱い、一市民として我々が果たすべき役割について考える。</p> <p>「科学史 1・2」履修を通じて、本学の建学の精神に掲げられた、国際的な視野で考える能力を育成する。また現代社会について歴史的、学際的観点から再考することによって、人々に仕え、社会に貢献する能力を育成する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに（古代ギリシアの学術の伝統とアウグスティヌス）</p> <p>第2回：はじめに（トマス・アクィナスとスコラ学の成立）</p> <p>第3回：物理学史（古代ギリシアの考え方）</p> <p>第4回：物理学史（中世ヨーロッパの運動論）</p> <p>第5回：物理学史（ガリレオ・ガリレイによる近代物理学の成立）</p> <p>第6回：物理学史（ニュートンによる近代物理学の発展と影響）</p> <p>第7回：化学史（アリストテレスの四元素説と錬金術）</p> <p>第8回：化学史（原子論の復活と近代化学の誕生）</p> <p>第9回：生物学史（古代・中世の生物学と種の概念の成立）</p> | | | |

第10回：生物学史（生物進化論の誕生と社会進化論、そして社会への影響）

第11回：啓蒙主義と科学技術の制度化

第12回：19世紀以降の科学技術の巨大化

第13回：科学技術と環境倫理

第14回：科学技術と生命・情報倫理

第15回：明治期日本の対応とまとめ

定期試験

テキスト

使用しない。書き込み式の資料を配布する。

参考書・参考資料等

講義内で適宜、本学図書館が所蔵する参考図書を紹介する。また稀^{きこう}観本を回覧する。

学生に対する評価

最終回の試験で評価する。毎回出席を確認し、出席率2/3未満の者には試験の受験を認めない。各回の講義内容について質問がある場合は講義内ないしは休憩時間中に申し出ること。最終回に実施する試験の評価に異議申し立てがある場合、あるいはコメントを求める場合は教務課を通じて連絡すること。

| | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|----------------------|
| 授業科目名：日本近現代史1 | 教員の免許状取得のための 中学校 選択科目 高等学校 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：金耿昊 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この講義では、10代の青年を対象に刊行された日本近現代史の歴史像（通史）を確認します。またその歴史像をふまえながら、私たちがいま暮らしている新潟県地域の歴史もみていきます。そのことを通して、いまを生きる私たちの社会がどのようにして現在に至るのかを一緒に考えたいと思っています。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>前期は明治時代から1945年までの「大日本帝国の時代」を対象とします。おおむねテキストの1章を2回にわけて講義し、そこに同時代の新潟県の歴史像をくわえる形でみていきます。この時代は戦争にはじまり、戦争に終わっていきます。そのなかを日本や新潟に暮らす人々はどのように生きたのか。それは今にどうつながっているのか。一緒に考えてみましょう。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：近代国家をつくる1（第1章1・2） 第2回：近代国家をつくる2（第1章3・4） 第3回：戊辰戦争と新潟県 第4回：「脱亜」への道1（第2章1・2） 第5回：「脱亜」への道2（第2章3・4） 第6回：日清戦争と新潟県 第7回：帝国日本の登場1（第3章1・2） 第8回：帝国日本の登場2（第3章3） 第9回：日露戦争と新潟県 第10回：国際関係の再編と大衆の時代1（第4章1・2） 第11回：国際関係の再編と大衆の時代2（第4章3） 第12回：1910～20年代の新潟県 第13回：帝国日本の膨張と崩壊1（第5章1・2） 第14回：帝国日本の膨張と崩壊2（第5章3・4）</p> | | | |

第15回：アジア太平洋戦争下の新潟県

定期試験

テキスト

大庭邦彦・長志珠絵・小林知子『ジュニア日本の歴史6 大日本帝国の時代』小学館、2011年

参考書・参考資料等

田中恵一・桑原正史・阿部洋輔・金子達・中村義隆・本間恂一編『県史15 新潟県の歴史』山川出版社、1998年

学生に対する評価

各回の感想・疑問点等の提出および、学期末の論述試験により評価する。

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：日本近現代史2 | 教員の免許状取得のための 中学校 選択科目 高等学校 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：金耿昊 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この講義では、10代の青年を対象に刊行された日本近現代史の歴史像（通史）を確認します。またその歴史像をふまえながら、私たちがいま暮らしている新潟県地域の歴史もみていきます。そのことを通して、いまを生きる私たちの社会がどのようにして現在に至るのかを一緒に考えたいと思っています。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>後期は1945年から現在までの「国際社会と日本」を対象とします。おおむねテキストの1章を2回にわけて講義し、そこに同時代の新潟県の歴史像をくわえる形でみていきます。敗戦の大きな痛手から復興し、冷戦の下での高度成長と繁栄をへて、グローバル化する世界の中でさまざまな矛盾に直面するという経緯をたどります。そのなかを日本や新潟に暮らす人々はどのように生きたのか。いまの「生きづらさ」はどのようにして生まれたのか。一緒に考えてみましょう。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：戦後の出発と冷戦のはじまり1（第1章1・2） 第2回：戦後の出発と冷戦のはじまり2（第1章3・4） 第3回：敗戦直後の新潟県 第4回：高度成長と冷戦の時代1（第2章1・2） 第5回：高度成長と冷戦の時代2（第2章3・4） 第6回：高度成長期の新潟県 第7回：経済大国と国際化1（第3章1・2） 第8回：経済大国と国際化2（第3章3・4） 第9回：1970～80年代の新潟県 第10回：グローバル化の時代1（第4章1・2） 第11回：グローバル化の時代2（第4章3・4） 第12回：グローバル化の時代3（第4章5・6）</p> | | | |

第13回：1990年代の新潟県

第14回：2000年代以降の新潟県

第15回：今を生きる私たち

定期試験

テキスト

大門正克『ジュニア日本の歴史7 国際社会と日本』小学館、2011年。

参考書・参考資料等

田中圭一・桑原正史・安倍洋輔・金子達・中村義隆・本間恂一『新潟県の歴史』山川出版社、1998年

学生に対する評価

各回の感想・疑問点等の提出および、学期末の論述試験により評価する。

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名： アジア史概説 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：土居智典 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業全体の内容を整理し、自分の意見に基づいて古代・中世東アジアの歴史像を述べる事が出来るようになる。毎回の授業の内容をまとめて、応用的な論述が可能になる。毎回の授業の内容をまとめて、簡潔な文章を作成できるようになる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>古代から東アジアの政治・思想・文化形成の中核をなしてきた中華世界の成立を理解する。中華世界は、黄河周辺の民族を取り込むことにより、その影響力を拡大し、また自らを変容させていき、現代にいたって中国という国家を形成してきたが、その過程を理解し、その民族構成や文化の有り様、影響領域が常に変容していた事を理解する。中華世界は、非中華の文化を取り入れ、東アジアの国際基準といったものにまで精錬し、対外的な文化発信を行い、政治的影響も与えてきた。東アジアのモンゴル高原・朝鮮半島・日本などが中華世界からどのような影響を受け、東アジアの国際秩序をどのように形成してきたかを、歴史的な視点から理解する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回.ガイダンス</p> <p>第2回.伝説の「夏」・殷</p> <p>第3回.周と礼制</p> <p>第4回.春秋時代の「中華」</p> <p>第5回.戦国時代から秦帝国</p> <p>第6回.秦漢帝国と「中華」</p> <p>第7回.三国時代以降の中華</p> <p>第8回.唐と朝鮮半島</p> <p>第9回.朝鮮の三国時代と日本</p> <p>第10回.日本の王権のはじまり</p> <p>第11回.倭国から日本へ</p> <p>第12回.遊牧民国家と中華世界</p> | | | |

第13回.隋・唐帝国と中華

第14回.東アジア世界とシルクロード

第15回.中華世界の人びと 漢人・唐人・「中国人」

定期試験

事前事後学習（予習・復習等）の具体的な内容およびそれに必要な時間：

予定されている授業内容に関する、簡易なレポートを事前に課すので、その作成と復習で、毎回およそ60分程度の自宅学習が必要となる。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

参考書・参考資料等

岡村秀典『夏王朝 王権誕生の考古学』講談社、2007年。

竹内康浩『中国王朝の起源を探る』山川出版社、2010年。

落合淳思『殷 中国史最古の王朝』中公新書、2015年。

小島毅『東アジアの儒教と礼』山川出版社、2004年。

佐藤信弥『周一理想化された古代王朝』中公新書、2016年。

高木智見『孔子 戦えば則ち克つ』山川出版、2013年。

鶴間和幸『秦漢帝国へのアプローチ』山川出版、1996年。

沢田勲『冒頓単于 匈奴遊牧国家の創設者』山川出版、2015年。

富田健之『武帝 始皇帝をこえた皇帝』山川出版、2016年。

川本芳昭『中国史のなかの諸民族』山川出版、2004年。

李成市『東アジア文化圏の形成』山川出版、2000年。

石見清裕『唐代の国際関係』山川出版、2009年。

学生に対する評価

期末テスト60%、授業中参加度20%、宿題20%。

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------------|---------------------------|
| 授業科目名： アジア史 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：土居智典 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 授業全体の内容を整理し、自分の意見に基づいて近世東アジアの歴史像を述べるようになる。毎回の授業の内容をまとめて、応用的な論述が可能になる。毎回の授業の内容をまとめて、簡潔な文章を作成できるようになる。 | | | |
| 授業の概要 古代において東アジアの政治・思想・文化形成の中核をなしてきた中華世界が、モンゴル帝国による征服などによりユーラシア世界とつながり、また朝鮮半島や日本と軍事的衝突や外交・商業上のつながりを持ったかを成立を理解する。国内的には封建的勢力の消滅、科挙制度の成立などによって、皇帝の独裁権力・専制国家体制が確立していく過程を、政治・経済的面から解説する。また、モンゴル人や満洲人に支配されることによって、古代とは異なる中華アイデンティティがどのように形成されたかを理解し、中華的国際秩序のあり方を理解していく。 | | | |
| 授業計画 第1回.ガイダンス 第2回.五代十国と遼・金 第3回.宋の成立と科挙 社会構造の変化 第4回.遊牧民国家と宋 第5回.モンゴル帝国と中華世界 第6回.モンゴルの朝鮮征服と元寇 第7回.倭寇 第8回.明の成立と東アジア 第9回.朝鮮王国 第10回.日本国王 足利義満 第11回.明王朝の崩壊 第12回.満洲人国家の台頭 | | | |

第13回.康熙・雍正・乾隆年間の清朝

第14回.清朝と東アジアの国際秩序

第15回.嘉慶・道光年間の清朝

定期試験

事前事後学習（予習・復習等）の具体的な内容およびそれに必要な時間：

予定されている授業内容に関する、簡易なレポートを事前に課すので、その作成と復習で、毎回およそ60分程度の自宅学習が必要となる。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

参考書・参考資料等

平田茂樹『科挙と官僚制』山川出版社、1997年。

岸本美緒『東アジアの「近世」』山川出版社、1998年。

杉山正明『興亡の世界史 モンゴル帝国と長いその後』講談社、2016年。

森平雅彦『モンゴル帝国の覇権と朝鮮半島』山川出版社、2011年。

山内弘一『朝鮮からみた華夷思想』山川出版社、2003年。

六反田豊『朝鮮王朝の国家と財政』山川出版社、2013年。

佐伯弘次『対馬と海峡の中世史』山川出版社、2008年。

鶴田啓『対馬からみた日朝関係』山川出版社、2006年。

田中健夫『倭寇 海の歴史』講談社、2012年。

学生に対する評価

期末テスト60%、授業中参加度20%、宿題20%。

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名： アジア近現代史 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：土居智典 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業全体の内容を整理し、自分の意見に基づいて東アジア近代の政治や経済の状況を述べる ことが出来るようになる。毎回の授業の内容をまとめて、応用的な論述が可能になる。毎回 の授業の内容をまとめて、簡潔な文章を作成できるようになる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>現在東アジアの中でも大国化の道を歩みつつある中国では、1949年の現政権成立以来、一貫 して一党独裁の政治体制を継続している。これは、近年のめざましい経済発展とともに変化す るのか、それとも現在の経済発展が一党独裁的な政治体制に支えられているのかは、判断の難 しいところである。そこで本講義では、中国の清末・中華民国北京政府時季の近代的国家形成 がいかにか困難をきわめたかを理解し、その後の国民党による党国家体制が、どのように成立し ていったかを解説していく。また、近代化過程で、中国と日本がどのような協力関係、交流を もっていたか、更に比較史的な視点での理解も目指していく。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回.ガイダンス 第2回.白蓮教の乱 第3回.アヘン戦争 第4回.太平天国の乱 第5回.洋務政策 第6回.日清戦争 第7回.戊戌変法 第8回.義和団の乱 第9回.光緒新政 第10回.預備立憲改革 第11回.立憲派と辛亥革命 第12回.臨時約法と新約法</p> | | | |

第13回.第一次世界大戦とベルサイユ条約

第14回.北洋政府の終焉

第15回.近年の研究動向のまとめ

定期試験

事前事後学習（予習・復習等）の具体的な内容およびそれに必要な時間：

予定されている授業内容に関する、簡易なレポートを事前に課すので、その作成と復習で、毎回およそ60分程度の自宅学習が必要となる。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

参考書・参考資料等

吉澤誠一郎『清朝と近代世界』岩波書店、2010年。

川島真『近代国家への模索』岩波書店、2010年。

石川禎浩『革命とナショナリズム』岩波書店、2010年。

学生に対する評価

期末テスト60%、授業中参加度20%、宿題20%。

| | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名： アジア近現代史 2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：土居智典 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業全体の内容を整理し、自分の意見に基づいて東アジア現代の政治や経済の状況を述べる ことが出来るようになる。毎回の授業の内容をまとめて、応用的な論述が可能になる。毎回 の授業の内容をまとめて、簡潔な文章を作成できるようになる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>現在東アジアの中でも大国化の道を歩みつつある中国では、1949年の現政権成立以来、一貫 して一党独裁の政治体制を継続している。これは、近年のめざましい経済発展とともに変化す るのか、それとも現在の経済発展が一党独裁的な政治体制に支えられているのかは、判断の難 しいところである。そこで、中国の清末以後の近代的国家形成の特徴、民国時期の国民党によ る党国家体制の成立を学び、現在の中国の政治・経済の動向を決めている歴史的要因を理解し 、今後の中国の発展の行方について考える。また、中国の近代化に大きな影響を与えた、日本 の政治・経済面での近代化との比較を行い、東アジアにおける近代の政治・経済のあり方の特 徴は何かについて理解する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回.ガイダンス 第2回.五四運動 第3回.孫文と国民党 第4回.蒋介石の北伐 第5回.南京国民政府の経済政策 第6回.党国家体制 第7回.日中戦争の始まり 第8回.第二次国共内戦と中華人民共和国成立 第9回.急速な集団化と大躍進 第10回.文化大革命 第11回.鄧小平と改革開放</p> | | | |

第12回.社会主義市場経済

第13回.世界の工場へ

第14回.習近平時代のゆくえ

第15回.近年の研究動向のまとめ

定期試験

事前事後学習（予習・復習等）の具体的な内容およびそれに必要な時間：

予定されている授業内容に関する、簡易なレポートを事前に課すので、その作成と復習で、毎回およそ60分程度の自宅学習が必要となる。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

参考書・参考資料等

久保亨『社会主義への挑戦』岩波書店、2011年。

高原明生『開発主義の時代へ』岩波書店、2014年。

西村成雄『中国の近現代史をどう見るか』岩波書店、2017年。

学生に対する評価

期末テスト60%、授業中参加度20%、宿題20%。

| | | | |
|---|------------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：西洋史概説 | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 丸島 宏太 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマは「歴史の中の戦争と平和」である。人類の歴史は戦争の歴史と言ってよいほど、戦争は人間社会から切り離せないものであり、それは今日でも変わりようがないように思える。本講義では、歴史の中で戦争のあり方、戦争にたいする人びとの認識の仕方がどのように変遷してきたかを考察する。これはとりもなおさず、それぞれの時代で平和がどう考えられてきたかを辿ることでもある。戦争と平和の問題を歴史的に、大局的に考えることが目標である。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>授業ではおもに西欧世界の歴史を手がかりに議論を進める。扱う時代は古代から現代にまで及ぶが、とくに重点を置くのは18世紀以降である。折に触れて、非ヨーロッパ世界にも目を向けていく。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：問題提起：戦争と平和を歴史的に考える</p> <p>第2回：古代の戦争と平和</p> <p>第3回：「神の平和」と「聖なる戦争」</p> <p>第4回：30年戦争と平和秩序の構築</p> <p>第5回：鎮められたベローナ：近世の「秩序立った戦争」</p> <p>第6回：フランス革命と国民戦争の登場</p> <p>第7回：戦争は政治の延長か</p> <p>第8回：ヴィーン体制の知恵</p> <p>第9回：19世紀末の戦争観・平和観</p> <p>第10回：忍び寄る総力戦の陰</p> <p>第11回：第一次世界大戦の衝撃</p> <p>第12回：平和運動と戦争賛美と</p> <p>第13回：核兵器と冷戦</p> <p>第14回：文明の衝突？今日の戦争と平和</p> <p>第15回：展望：新たな戦争？新たな平和？</p> | | | |

定期試験

テキスト

用いない

参考書・参考資料等

マイケル・ハワード『ヨーロッパ史と戦争』（中公文庫）

マイケル・S・ナイバーグ『戦争の世界史』（ミネルヴァ書房）

服部良久 他編著『大学で学ぶ西洋史 古代・中世』（ミネルヴァ書房）

小山哲 他編著『大学で学ぶ西洋史 近現代』（ミネルヴァ書房）

高校の世界史教科書は補助手段として役に立つ。高校で使う世界史図説や歴史地図のようなものも有用である。

学生に対する評価

期末テストを最重視するが、授業中に随時、授業にたいする感想や質問、要望などを書いてもらい、評価の補助とする。

| | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：西洋史 | 教員の免許状取得のための 中学校 選択科目 高等学校 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 丸島 宏太 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマは「ドイツ国民国家形成と19世紀ヨーロッパ」。ナショナリズムとか市民社会とかいうと、妙に難しい言葉のように思われるが、要するに今日の社会が（肯定的にせよ、否定的にせよ）根ざす当たり前の価値である。この講義では、我々にとっての「当たり前」を歴史的に再検討することが目標である。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>およそ1800年前後から1890年頃までが本講義の対象である。一般庶民に至るまでが特定の国家に帰属意識と愛着を持つと言う意味でのナショナリズム、自立した個人から成り立ち彼らの自由な経済・社会活動と政治参加を旨とする市民社会の2つが、この講義の扱う時期を理解するための鍵概念である。ヨーロッパでも特に注目する地域はドイツ語圏地域で、ここでは19世紀初頭にナショナリズムが高まり、1871年によりやくドイツ帝国という統一国家ができたという意味で、この時期の特徴を語るのにふさわしい事例が多い。そこで、ドイツを軸にしながら当時のヨーロッパを概観する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：総論：「長い19世紀」を中欧から概観する</p> <p>第2回：19世紀初頭のドイツ再編とウィーン体制、欧州協調</p> <p>第3回：保守・反動政府とナショナリズム運動、自由主義運動</p> <p>第4回：工業化と都市化</p> <p>第5回：市民社会と資本主義の発展</p> <p>第6回：ビーダーマイヤー時代と市民文化の展開</p> <p>第7回：社会変革の痛みと不安</p> <p>第8回：1848年の革命とドイツ国民議会の成立</p> <p>第9回：民族問題、社会問題と革命の激化</p> <p>第10回：遡上に上ったドイツ統一問題</p> <p>第11回：イタリア統一戦争と欧州の権力政治的闘争</p> <p>第12回：市民文化の繁栄とその底辺への拡大</p> | | | |

第13回：ドイツ統一戦争とドイツ帝国の成立

第14回：1870年以降のヨーロッパにおける「ドイツ」という厄介な要因

第15回：展望：欧州列強の繁栄と帝国主義的競争の時代へ

定期試験

テキスト

用いない

参考書・参考資料等

小山哲 他編著『大学で学ぶ西洋史 近現代』（ミネルヴァ書房）

南直人 他編『はじめて学ぶドイツの歴史と文化』（ミネルヴァ書房）

若尾祐司 他編著『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）

谷川稔 他編著『近代フランスの歴史』（ミネルヴァ書房）

高校の世界史教科書は補助手段として役に立つ。高校で使う世界史図説や歴史地図のようなものも有用である。

学生に対する評価

期末テストを最重視するが、授業中に随時、授業にたいする感想や質問、要望などを書いてもらい、評価の補助とする。

| | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|----------------------|
| 授業科目名：日本思想史1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：金耿昊 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>思想史では、日本に暮らす人々が、それぞれの時代の中で何を考えてきたのかをみていきます。古代・中世・近世・近代と現在に近づくにつれて、人びとの思想の幅は広がり、書き残されたものも増えていきます。それらの思索は現在へとどのようにつながっていくのか。過去のさまざまな思想のありかたを通して、学ぶことができればと思います。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>前期は原始・古代から近世のはじまりまでを対象にします。講義ではおおよそ1回の授業で1章ずつすすめ、テキストの内容を紹介したうえで、それをいまどのように考えられるか、という観点から近年の研究をふまえて考察していきます。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（古代・中世・近世初期）</p> <p>第2回：古代1：「日本」の誕生</p> <p>第3回：古代2：奈良時代の思想と宗教</p> <p>第4回：古代3：平安時代の仏教</p> <p>第5回：古代4：平安時代の政治と貴族文化</p> <p>第6回：古代5：漢文の思想・和文の思想</p> <p>第7回：中世1：院政期の思想</p> <p>第8回：中世2：武家政権の成立と政治思想の展開</p> <p>第9回：中世3：鎌倉仏教の思想</p> <p>第10回：中世4：神道思想の形成</p> <p>第11回：中世5：文芸と芸能の思想</p> <p>第12回：中世6：民衆文化の開花</p> <p>第13回：近世1：世俗と宗教の葛藤</p> <p>第14回：近世2：泰平の到来</p> <p>第15回：小括（古代・中世・近世初期の日本の思想とは何か？）</p> | | | |

| |
|--|
| 定期試験 |
| テキスト |
| 佐藤弘夫・平山洋編『概説 日本思想史 [増補版]』ミネルヴァ書房、2020年。 |
| 参考書・参考資料等 |
| 末木文美士『日本思想史』岩波新書、2020年。 日本思想史事典編集委員会編『日本思想史事典』丸善出版、2020年。 荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』新書館、2008年 |
| 学生に対する評価 |
| 各回の感想・疑問点等の提出および、学期末の論述試験により評価する。 |

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------------|----------------------|
| 授業科目名：日本思想史2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：金耿昊 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>思想史では、日本に暮らす人々が、それぞれの時代の中で何を考えてきたのかをみていきます。古代・中世・近世・近代と現在に近づくにつれて、人びとの思想の幅は広がり、書き残されたものも増えていきます。それらの思索は現在へとどのようにつながっていくのか。過去のさまざまな思想のありかたを通して、学ぶことができればと思います。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>後期は近世・近代の思想を対象にします。講義ではおおよそ1回の授業で1章ずつすすめ、テキストの内容を紹介したうえで、それをいまどのように考えられるか、という観点から近年の研究をふまえて考察していきます。特にこの時期には思想の裾野が広がり、民衆層にまで学び、考え、書く営みが定着していきます。その点にも注目して講義をできればと思います。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに（近世・近現代の思想） 第2回：近世3：儒学と仏教 第3回：近世4：町人の思想・農民の思想 第4回：近世5：神道と国学 第5回：近世6：蘭学の成立と内憂外患 第6回：近世7：幕末の群像 第7回：近現代1：「文明」への旅立ち 第8回：近現代2：臣民と国民 第9回：近現代3：大正デモクラシーの思想 第10回：近現代4：都市と大衆の思想 第11回：近現代5：民族という幻想 第12回：近現代6：戦後民主主義 第13回：近現代7：国民と市民の相克 第14回：近現代8：平成思想史</p> | | | |

第15回：まとめ（日本の思想とは、何か？）

定期試験

テキスト

佐藤弘夫・平山洋編『概説 日本思想史 [増補版]』ミネルヴァ書房、2020年。

参考書・参考資料等

末木文美士『日本思想史』岩波新書、2020年。

日本思想史事典編集委員会編『日本思想史事典』丸善出版、2020年。

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』新書館、2008年

学生に対する評価

各回の感想・疑問点等の提出および、学期末の論述試験により評価する。

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： ヨーロッパ思想史1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 井西 弘樹 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 西洋哲学の歴史について概説を行う。西洋哲学の歴史について、おおまかなイメージを持つようになることが目標となる。さらに、それぞれの哲学者が、どのような問題意識に基づきつつ、みずからの学説を提起するに至ったのかについても理解できるようになってほしい。 | | | |
| 授業の概要 この授業では、古代から中世に至るまでの代表的哲学者たちについて、その生涯と学説の紹介を行う。西洋哲学は、紀元前六世紀頃に古代ギリシアで始まったとされるが、その核心には、私たちにとっての「当たり前」を疑う姿勢があると言える。歴史に名を残すような哲学者たちは、当時常識とみなされていた事柄を果敢に問い直そうとした人々であった。そうした哲学者たちの学説を学ぶことは、私たちがみずからの価値観や世界観について振り返る上でも、さまざまなヒントを与えてくれるはずである。 前期の授業では、古代ギリシアにおける哲学の誕生から中世哲学の展開までの流れを追う。ときに抽象度の高い内容となることが予想されるが、具体例などを交えながら可能なかぎり分かりやすい解説を行いたい。 | | | |
| 授業計画 第1回：導入 第2回：ソクラテス以前の哲学者たち（タレス・ヘラクレイトスなど） 第3回：ソクラテス以前の哲学者たち（エンペドクレス・アナクサゴラスなど） 第4回：ソクラテス 第5回：プラトン（生涯と著作） 第6回：プラトン（『国家』における正義論） 第7回：プラトン（『国家』におけるイデア論） 第8回：プラトン（『国家』における詩人批判） 第9回：アリストテレス 第10回：エピクロス 第11回：ストア派 | | | |

第12回：プロティノス

第13回：アウグスティヌス

第14回：トマス・アキナス

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006.

クラウス・リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー、2000.

学生に対する評価

期末試験による評価を基本とするが、出席と参加態度も加味する。

| | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|----------------------------|
| 授業科目名： ヨーロッパ思想史2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 井西 弘樹 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 <p>西洋哲学の歴史について概説を行う（前期からの続き）。西洋哲学の歴史について、おおまかなイメージを持てるようになることが目標となる。さらに、それぞれの哲学者が、どのような問題意識に基づきつつ、みずからの学説を提起するに至ったのかについても理解できるようになってほしい。</p> | | | |
| 授業の概要 <p>前期の授業に引き続き、近世から現代に至るまでの代表的哲学者たちについて、その生涯と学説の紹介を行う。ヨーロッパの哲学は、「われ思う、ゆえにわれあり」という言葉で有名なデカルトの登場以降、新たな時代に入った。合理論や経験論、ドイツ観念論や現象学など、その展開は百花繚乱の趣があるほど多様である。この時代の哲学者たちの思想は、われわれ現代人の世界観の基礎をなすものであり、私たちがみずからの価値観や世界観について振り返る上でもさまざまなヒントを与えてくれるはずである。</p> <p>授業では、代表的な哲学者の理論を時系列に即して紹介していく。ときに抽象度の高い内容となることが予想されるが、具体例などを交えながら可能なかぎり分かりやすい解説を行いたい。</p> | | | |
| 授業計画 第1回：導入 第2回：デカルト（「われ思う、ゆえにわれあり」） 第3回：デカルト（神の存在証明） 第4回：デカルト（物体の存在証明） 第5回：スピノザとライプニッツ 第6回：ロック 第7回：バークリーとヒューム 第8回：カント（現象と物自体） 第9回：カント（アンチノミーとデカルト批判） 第10回：ヘーゲル | | | |

第11回：ショーペンハウアー

第12回：ニーチェ（悲劇論）

第13回：ニーチェ（神の死と永遠回帰）

第14回：ハイデガー

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006.

野田又夫『西洋哲学史 ルネサンスから現代まで』ちくま学芸文庫、2017.

学生に対する評価

期末試験による評価を基本とするが、出席と参加態度も加味する。

| | | | |
|--|---|-------------|-------------------------|
| 授業科目名：自然地理学 | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：山縣 耕太郎 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>私たちは、日常生活の中でも様々な形で自然環境の影響を受けている。特に、気候環境が大きく変動しつつあり、災害が多発する現代において、自然環境に対して正しい認識を持つ必要がある。この講義では、自然環境を構成する各環境構成要素について、その特徴と人間社会との関わりについて論じる。特に環境は、様々なスケールで変化するものであることを理解する。その上で、自然地理学における基本的な概念及び考え方について理解するとともに、自然環境を読み解くための基礎的な方法を身につける。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>自然地理学における基本的な概念及び考え方について、具体的事例を通して平易に講義する。気候、地形、植生、土壌、水文などの自然環境を構成する各要素について理解し、特に人間生活との関わりについて考える。また、自然環境の空間的、時間的な変化について認識する。さらには、環境が、自然と人間との相互作用で成り立っていることを理解する。それらをふまえて環境問題と災害への自然地理的なアプローチについて考察する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然地理とは 2. 環境の見方（景観） 3. 環境の見方（地図） 4. 新潟県の自然環境 5. 環境変化と人類の歴史 6. 植生の多様性と植生の役割 7. 土壌の多様性と土壌の役割 8. 地形形成と人間生活 9. 気候と人間生活 10. 世界の水資源と水利用 11. 資源・エネルギー問題への自然地理的アプローチ 12. 環境問題への自然地理的アプローチ 13. 地球温暖化への自然地理的アプローチ | | | |

14. 砂漠化への自然地理的アプローチ

15. 災害への自然地理的アプローチ定期試験

テキスト

特になし。必要に応じて指示する。プリントを配付する。

参考書・参考資料等

特になし。必要に応じて指示する。プリントを配付する。

学生に対する評価

出席を重視する。授業中にいくつかの課題を行い、最後にレポートを課し、評価の対象とする

| | | | |
|---|---|-------------|-----------------------|
| 授業科目名： 人文地理学 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：櫛谷圭司 担当形態：単独 |
| 科目 | 教科および教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 国内外の地域を探究する際に必要な地理学的な分析方法や地域のさまざまなとらえ方を理解することが、この人文地理学の授業のテーマである。この授業で学ぶことにより、中学校・高等学校の地理分野を教えるための知的基盤を形成することを目標とする。 | | | |
| 授業の概要 地理学と地図の歴史、および地域・空間の分析方法や手法を解説した上で、都市、環境、地域の3つの小テーマについて、それぞれ自然・社会・文化的要素の関連に注目して説明する。 | | | |
| 授業計画 第1回：地理学の特徴1－はじめに～地理知識の拡大と世界地図 第2回：地理学の特徴2－地図と空中写真の利用 第3回：地理学の特徴3－グローバル化と地理学－パンデミックを例に 第4回：人口と都市1－人口移動と人口問題 第5回：人口と都市2－世界の都市システム 第6回：人口と都市3－日本の都市発展と都市システム 第7回：人口と都市4－都市問題の誕生と変化 第8回：環境と地域1－都市の気候と水環境 第9回：環境と地域2－水の争奪、砂漠化、越境公害 第10回：環境と地域3－地球環境の地域的影響 第11回：環境と地域4－環境と文明 第12回：地域と生活空間1－新潟の地域性 第13回：地域と生活空間2－東アジアの生活空間 第14回：地域と生活空間3－日本の自然と空間 第15回：地域と生活空間4－東アジアの風・水・土～持続可能な発展とは 定期試験 | | | |
| テキスト 使用しない。必要な印刷資料を授業前に配布する。 | | | |
| 参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。 | | | |
| 学生に対する評価 授業時間内におこなう小テストの得点の合計と定期試験の得点を4：6の割合で合算して評 | | | |

価点を算出する。

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名： 地誌 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：櫛谷圭司 担当形態：単独 |
| 科目 | 教科および教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 世界の諸地域について人文・社会的要素と自然的要素を総合して「地域性」として理解することが、この地誌の授業のテーマである。この授業で学ぶことにより、中学校・高等学校の地理分野を教えるための知的基盤を形成することを目標とする。 | | | |
| 授業の概要 日本周辺の各国・各地域について、中国各地、その周辺地域、東南アジアの3つに分けて、それぞれ歴史、自然、人々の暮らし、経済発展などに注目して説明する。 | | | |
| 授業計画 第1回：中国大陸の歴史・自然・人々の暮らし1－地誌とは、アジアとは 第2回：中国大陸の歴史・自然・人々の暮らし2－北京 第3回：中国大陸の歴史・自然・人々の暮らし3－東北 第4回：中国大陸の歴史・自然・人々の暮らし4－上海と江南 第5回：中国大陸の歴史・自然・人々の暮らし5－西安と西域 第6回：中国大陸の歴史・自然・人々の暮らし6－華南 第7回：中国と周辺地域における社会の変化1－香港とマカオ 第8回：中国と周辺地域における社会の変化2－台湾 第9回：中国と周辺地域における社会の変化3－モンゴル 第10回：中国と周辺地域における社会の変化4－ロシア極東 第11回：中国と周辺地域における社会の変化5－韓国 第12回：東南アジアの経済発展と自然・文化遺産1－ASEANとタイ 第13回：東南アジアの経済発展と自然・文化遺産2－マレーシア、シンガポール 第14回：東南アジアの経済発展と自然・文化遺産3－ベトナム 第15回：東南アジアの経済発展と自然・文化遺産4－カンボジア、ミャンマー 定期試験 | | | |
| テキスト 使用しない。必要な印刷資料を授業前に配布する。 | | | |
| 参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。 | | | |
| 学生に対する評価 授業時間内におこなう復習の小テストの得点の合計と定期試験の得点を5：5の割合で合算 | | | |

して評価点を算出する。

| | | | |
|--|----------------------------------|--------------|----------------|
| 授業科目名： 国際法 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 藤本晃嗣 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義は、現代国際社会の理解の前提である国際法の枠組みを習得し、国際法が国際社会、さらには国内社会にどのような影響を与えているのかについての理解をすることを目的とする。テーマは「国際法の生成と展開」である。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>前期においては、国際法が国際社会の生成・発展とともに伝統的国際法から現代国際法へと転換した点を詳細に検討し、その間、日本が自身の国内法を含めてどのような影響を遂げたのかを検討する。この講座を一つの手掛かりにして、未解決の社会問題を冷静にかつ多角的にとらえていく力を受講生が築ければ幸いである。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ヨーロッパ国際社会成立前史</p> <p>第2回：ヨーロッパ国際社会の成立と伝統的国際法の成立</p> <p>第3回：非ヨーロッパ国際社会でのルール—アジア地域、イスラム地域</p> <p>第4回：非ヨーロッパ国際社会への伝統的国際法の適用—日本と伝統的国際法</p> <p>第5回：第一次世界大戦前までの国際社会と不平等条約</p> <p>第6回：「戦争」と伝統的国際法</p> <p>第7回：国際連盟の成立</p> <p>第8回：「戦争」禁止規範の生成</p> <p>第9回：伝統的国際法から現代国際法への転換第10回：</p> <p>第11回：現代国際法の特徴(1)—国際連合と武力行使禁止原則</p> <p>第12回：現代国際法の特徴(2)—人民の自決権</p> <p>第13回：現代国際法の特徴(3)—国家平等原則</p> <p>第14回：現代国際法の特徴(4)—国際社会の一般的利益</p> <p>第15回：紛争解決と国際関係</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>芹田健太郎他『コンパクト学習条約集（第3版）』信山社、2020年</p> | | | |

参考書・参考資料等

松井芳郎『国際法から世界を見る(第3版)』東信堂、2011

学生に対する評価

出席と学期末試験に基づいて総合評価だが、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

| | | | |
|---|----------------------------------|--------------|----------------|
| 授業科目名： 国際法 2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 藤本晃嗣 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、現代国際社会の理解の前提としての国際法の知識を習得し、国際法が国際社会、更には国内社会にどのような影響を与えているのかをについての理解をすることを目的とする。テーマは、「条約、慣習法」、「国際法の規律の拡大」などである。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>後期においては、現代国際法の個別具体的な領域として「海洋法」や「環境の国際的保護」などに重点を置き、これらに関する基礎知識の習得を目指す。その上で、これらの分野が日本の国内法においてどのように実施されているのかについて検討する。新聞の社会面や政治面を読み解く手がかりとなれば、幸いである。復習は必須である。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：現代国際法の基本構造(1)―条約</p> <p>第2回：現代国際法の基本構造(2)―慣習国際法</p> <p>第3回：現代国際法の基本構造(3)― 国際法規の効力関係</p> <p>第4回：国際法と国内法の関係(1) ―日本社会への国際法の受容</p> <p>第5回：国際法と国内法の関係(2)― 条約批准による日本の国内法改正の事例</p> <p>第6回：国家と国家機関(1)― 国家の定義</p> <p>第7回：国家と国家機関(2) ―日本が受け入れている国家機関とは？</p> <p>第8回：国家の基本的権利義務と管轄権(1)―主権</p> <p>第9回：国家の基本的権利義務と管轄権(2)― 国内問題不干涉原則</p> <p>第10回：海洋法(1)―伝統的国際法における海洋法</p> <p>第11回：海洋法(2)―第一次国連海洋法会議</p> <p>第12回：海洋法(3)―国連海洋法条約と日本</p> <p>第13回：国際化地域(1)―南極大陸</p> <p>第14回：国際化地域(2)―宇宙空間</p> <p>第15回：国際環境法</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> | | | |

芹田健太郎他『コンパクト学習条約集（第3版）』信山社、2020年

参考書・参考資料等

植木俊哉他『ブリッジブック国際法（第2版）』信山社、2007. 松井芳郎『国際法から世界を見る（第3版）』東信堂、2011

学生に対する評価

出席と学期末試験に基づいて総合評価だが、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：政治学1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：富川尚 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>様々な意味で変革期をむかえている現在の社会において、政治の役割が高まってきている。その政治を分析するための基礎的な力を身につけることをこの講義の目的とする。そのためには先ず第一に政治が自分たちの未来と直結していることを自覚してもらいたい。その上で政治的な議論をするのに必要な、教養、分析能力、ならびにしっかりとした価値観を身に付けて欲しいと考えている。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、先ず国家、権力、権威、正当性といった基本的な概念の確認をおこなったうえで、政治学の基礎を学習していく。主な内容としては機能主義的国家観と近代初期までの政治社会に対する思想を取り上げていく予定である。また受講生の自主的な参加を促進するために、できるだけ論争的な問題を取り上げたり、時事問題の簡単な説明をおこなうなどして政治に対する関心を高めたいと考えている。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：序論 政治とはなにか</p> <p>第2回：今政に何を期待できるか</p> <p>第3回：政治学の基礎知識（1） 権力と権威</p> <p>第4回：政治学の基礎知識（2） 支配の正当性とリーダーシップ</p> <p>第5回：政治学の基礎知識（3） 政治システムと政治過程</p> <p>第6回：社会における政治の役割（1） 機能と形態</p> <p>第7回：社会における政治の役割（2） 安全と福祉の確保</p> <p>第8回：国家の誕生とその発達（1） 多様な国家形態</p> <p>第9回：国家の誕生とその発達（2） 近代国家の発達</p> <p>第10回：国家の誕生とその発達（3） 20世紀国家へ</p> <p>第11回：古代ギリシャの政治思想（1） ポリスと正義</p> <p>第12回：古代ギリシャの政治思想（2） ポリスの衰退</p> <p>第13回：キリスト教と政治思想 神の国と地上の国</p> <p>第14回：近代の政治原理（1） 国家理性と国家主権</p> | | | |

第15回：近代の政治原理（2） 社会契約論と民主主義

定期試験

テキスト

使用しない

参考書・参考資料等

バーナード・クリック『現代政治学入門』講談社学術文庫、2003年。それ以外は授業中に指示する。

学生に対する評価

期末試験の成績(80点程度)に平常点(20点程度)を加味して評価する。希望がある場合答案を通して振り返りの機会を設ける予定である。

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：政治学2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：富川尚 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では現実の政治を分析する力を身につけることを目標としたい。具体的には(1)政治的対立の背景にある基本的な政治思想を理解できるようになること、(2)政治の動的過程を分析することができるようになること、(3)現代の日本の政治状況を説明できるようになること、を目指す。その結果、現代の政治の問題点とその解決方法を自分の言葉で議論できるようになってもらいたい。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>政治は必然的に人々の対立を扱うことになる。そこで最初にその対立の思想的な背景を取り上げる。政治制度をめぐる対立、進歩主義と保守主義の対立、自由と平等の複雑な関係、効率と公正のバランスなどを題材にする予定である。次に対立をはらむ政治がどのような実体となるのかを分析する。ここでは政治システムならびに政治過程を取り上げる予定である。最後に近代日本に見られる主要な政治的対立を見ていくことで、現代の政治状況を考えてみたい。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：序論 政治はどのように行われるのか</p> <p>第2回：政治的対立と民主主義の問題 全体意思と多数者の専制</p> <p>第3回：最良の民主主義を目指して ポリアーキーと多極共存型民主主義</p> <p>第4回：社会改革をめぐる対立 進歩主義と保守主義</p> <p>第5回：自由をめぐる問題（1） 効率の追求と国家の役割</p> <p>第6回：自由をめぐる問題（2） 個人の尊重と集団</p> <p>第7回：平等をめぐる問題（1） 社会的公正と経済政策</p> <p>第8回：平等をめぐる問題（2） 効率と公正のバランス</p> <p>第9回：現代政治学の発達 マクロ政治学とミクロ政治学の発達</p> <p>第10回：政治過程論（1） 政治システムと社会運営</p> <p>第11回：政治過程論（2） 現代国家の政治過程</p> <p>第12回：政治過程論（3） 圧力団体と世論</p> <p>第13回：近代日本における政治的対立（1） 第二次世界大戦までを中心に</p> <p>第14回：近代日本における政治的対立（2） 第二次世界大戦後を中心に</p> | | | |

第15回：現在の政治的課題

定期試験

テキスト

使用しない

参考書・参考資料等

政治思想については、福田歓一『政治学史』東京大学出版会、1985年、をあげておく。それ以外については授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

期末試験の成績(80点程度)に平常点(20点程度)を加味して評価する。希望がある場合答案を通して振り返りの機会を設ける予定である。

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：国際政治 論1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：富川尚 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「平和な世界の確立」という問題意識を持ちつつ、国際政治の「現在」に対する理解を深めることが本講義の目的である。そのために「力をめぐる闘争」といった様相を見せる国際政治の現実をふまえたうえで、平和な社会を維持する方法を模索していく能力を身につけることを目標にする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義ではまず国際社会が持っている基本構造を確認したうえで、国際政治を見るための基本的な視点をいくつか提示していく。具体的には「力の政治」、「国際的道義」、「国益」等を取り上げる予定である。その上で「国際社会の組織化」がどのように可能になるのか理論的に考察していきたい。また適宜時事問題を取り上げて、若干の解説をしようと考えている。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：国際政治とは</p> <p>第2回：近代国際社会の誕生</p> <p>第3回：近代国家が持つ特徴と国際社会</p> <p>第4回：戦争と国際社会（1） なぜ戦争が起こるのか</p> <p>第5回：戦争と国際社会（2） 現代の戦争の特徴</p> <p>第6回：「力の政治」としての国際政治（1） 目的としての力</p> <p>第7回：「力の政治」としての国際政治（2） 力の均衡政策</p> <p>第8回：国際社会における力と道義（1） 国際道義とは</p> <p>第9回：国際社会における力と道義（2） 国際法の発達</p> <p>第10回：国際法とその限界</p> <p>第11回：国益追求をめぐる国際政治 相対利得と国家間対立</p> <p>第12回：国益の再定義 国際社会の組織化の原動力</p> <p>第13回：国際システムの変容</p> <p>第14回：覇権と国際秩序</p> <p>第15回：国際社会の組織化をめぐる諸問題</p> <p>定期試験</p> | | | |

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

古典として、E. H. カー『機器の二十年』岩波文庫、2011年、をあげておく。それ以外は授業中に指示する。

学生に対する評価

期末試験の成績(80点程度)に平常点(20点程度)を加味して評価する。希望がある場合答案を通して振り返りの機会を設ける予定である。

| | | | |
|--|----------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：国際政治論2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：富川尚 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では国際政治論Iの内容をふまえつつ、より具体的な国際政治上の諸問題を考察することで、現在の国際政治が抱える課題を分析する能力を身につけることを目標にする。そのためには受講生が各国の対外政策のぶつかり合いという様相をみせる国際政治の実体を理解した上で、国際社会の組織化の現状を説明できるようになる必要があると考えている。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>国際政治が展開される主要舞台である大国間の外交交渉を中心に見ていく予定である。まず最初に対外政策と外交の違いを理解した上で、主要国の対外政策の特徴を取り上げる。その基礎知識をふまえた上で、第一次世界大戦後の国際制度交渉を比較的詳しく分析する予定である。最後に現在の国際社会が抱える課題に対する国際政治的取り組みについて簡単に取り上げたいと考えている。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：対外政策と外交</p> <p>第2回：主要国の対外政策（1）アメリカを中心に</p> <p>第3回：主要国の対外政策（2）イギリスを中心に</p> <p>第4回：主要国の対外政策（3）フランスを中心に</p> <p>第5回：主要国の対外政策（4）中国・ロシアを中心に</p> <p>第6回：主要国の対外政策（5）日本を中心に</p> <p>第7回：新外交と国際連盟の誕生</p> <p>第8回：国際連盟に対する幻滅と第二次世界大戦</p> <p>第9回：国際連合創設をめぐる国際政治</p> <p>第10回：核兵器と冷戦の激化</p> <p>第11回：多極化時代の国際政治</p> <p>第12回：冷戦の終結と国際秩序の動揺</p> <p>第13回：発展途上国と国際政治</p> <p>第14回：リージョナリズムとグローバリズムの補完関係</p> <p>第15回：国際社会の組織化の将来</p> | | | |

| |
|---|
| 定期試験 |
| テキスト 使用しない。 |
| 参考書・参考資料等 中西寛『国際政治とは何か』中公新書、2003年。 |
| 学生に対する評価 期末試験の成績(80点程度)に平常点(20点程度)を加味して評価する。希望がある場合答案を通して振り返りの機会を設ける予定である。 |

| | | | |
|---|----------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：国際関係史1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：富川尚 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>近年の国際社会はグローバル化の進展等により、かつてないような大変革期を迎えているように見える。こうした変化を歴史的に理解できるようになることをこの講義の目標にする。当然こういった大きな問題を扱う際にはできるだけ長い歴史的視野を持つ必要がある。そこで本講義では人類史としての国際関係史の概観を理解した上で、現代の国際関係を見る上で必要な基礎知識が身に付くように心掛ける。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では近代以前の国際関係も視野に入れて国際関係の発達過程を概説的に追っていくことにする。現在の国際関係の基底には約400年前のヨーロッパに始まる近代国民国家システムがあるが、それも時代の産物であり、今後変化していく可能性がある。そうした視点を持ちつつ、古代、中世の国際関係の歴史を簡単に見た上で、近代以降の国際関係の発達を四つの時代に区分しつつ概観する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：現代の国際社会の基本的特徴</p> <p>第2回：最近の国際社会における構造変化の性質</p> <p>第3回：国家の誕生とその役割</p> <p>第4回：古代の国家と国家間関係 都市国家間関係を中心に</p> <p>第5回：中世の国家と国家間関係 多層的社会を中心に</p> <p>第6回：近代国家の誕生と近代国家体系の成立</p> <p>第7回：君主の時代の国際関係（1） ウェストファリア体制の特徴</p> <p>第8回：君主の時代の国際関係（2） 近代国際秩序の確立</p> <p>第9回：ブルジョワデモクラシーの時代の国際関係（1） 市民革命と新たな国際関係</p> <p>第10回：ブルジョワデモクラシーの時代の国際関係（2） ナショナリズムとインターナショナルイズムの調和</p> <p>第11回：マスデモクラシー時代の国際関係（1） 市民社会の発達と国際関係の危機</p> <p>第12回：マスデモクラシー時代の国際関係（2） ナショナリズムの勝利と二度の世界大戦</p> <p>第13回：マスデモクラシーの徹底とグローバル化の時代（1） 人権と経済秩序</p> | | | |

第14回：マスデモクラシーの徹底とグローバリズムの時代（2） 国際組織の発達

第15回：国際社会の組織化を目指して

定期試験

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

E. H. カー『ナショナリズムの発展』みすず書房、2006年。

学生に対する評価

期末試験の成績(80点程度)に平常点(20点程度)を加味して評価する。希望がある場合答案を通して振り返りの機会を設ける予定である。

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：国際関係 史2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：富川尚 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際社会の大変革を理解するためには20世紀以降急激に進んだ国際社会の組織化という現象を把握する必要がある。そこで本講義では第一次世界大戦以後の国際社会の組織化の発展過程を理解することを目標にする。そのことを通して現在の国際関係のあり方に対する理解も深まることを期待している。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>「国際社会の組織化」の動きは第一次世界大戦の反省から徐々に進められ、第二次世界大戦後に本格的なものとなった。その動きは米ソ対立を基調とした冷戦によって覆い隠され、あまり目立たない時期もあったが、着実に進められてきたことも事実である。本講義では戦争がもたらす惨劇にも目を向けながら、国際社会が組織化される過程を分析していきたい。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：序論 戦争と国際社会の組織化</p> <p>第2回：第一次世界大戦の勃発</p> <p>第3回：第一次世界大戦と総力戦</p> <p>第4回：ウィルソンの「勝利なき平和」演説と国際連盟</p> <p>第5回：ヒトラーの登場とウルトラナショナリズム</p> <p>第6回：第二次世界大戦の勃発</p> <p>第7回：第二次世界大戦と国際環境</p> <p>第8回：アメリカ主導の「国際社会の組織化」</p> <p>第9回：冷戦の深刻化</p> <p>第10回：ヨーロッパ統合の発達</p> <p>第11回：南北問題の深刻化</p> <p>第12回：戦後経済体制の動揺と主要国首脳会議の誕生</p> <p>第13回：主要国首脳会議の活躍</p> <p>第14回：冷戦の終結と国際社会の動揺</p> <p>第15回：新たな紛争形態と国際社会の行方</p> <p>定期試験</p> | | | |

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

渡邊啓貴『ヨーロッパ国際関係史』有斐閣アルマ、2008年。それ以外は授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

期末試験の成績(80点程度)に平常点(20点程度)を加味して評価する。希望がある場合答案を通して振り返りの機会を設ける予定である。

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：地域統合 論1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：富川尚 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この講義はEU(European Union)に典型的にみることができる国際地域統合現象を取り上げる。地域統合は1990年代から勢いづき、この動きに無縁な国家は世界中に存在しなくなった一方、近年はBrexit(イギリスのEUからの脱退)に代表される試練にさらされるようになっていいる。そこでこの講義を通じて、時代の流れの中でなぜ地域統合が必要になっているのか、また問題となっているのかを理解したうえで、自分の将来に関係することとして地域統合現象を説明できるようになることが目標である。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>実際の地域統合はどのような契機から始められ、どのように進められるものなのであろうか。本講義では、近年注目されるようになっていいる「東アジア共同体」構想がどのような背景から議論されるようになっていいるかを確認したうえで、国民国家を超える地域統合体の設立が持つ意味を分析する。そして最も進んだ地域統合体であるEUがどのように誕生することになったのかをその統合運動に関わった主要人物に焦点を当てて詳しく見ていく予定である。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：序論 地域統合の現在</p> <p>第2回：地域統合と日本① 東アジア共同体の可能性</p> <p>第3回：地域統合と日本② アジア主義の来歴</p> <p>第4回：国際社会を理解するための基礎① 近代以前の経験</p> <p>第5回：国際社会を理解するための基礎② 国民国家体系を中心に</p> <p>第6回：欧州統合思想の萌芽① 平和と統合</p> <p>第7回：欧州統合思想の萌芽② 経済と統合</p> <p>第8回：国際連盟に対する幻滅とパン・ヨーロッパ運動① グローバリズムとリージョナリズム</p> <p>第9回：国際連盟に対する幻滅とパン・ヨーロッパ運動② ウルトラナショナリズムと世界大戦</p> <p>第10回：戦後欧州の統合運動の開始① 市民運動とエリートによる計画</p> <p>第11回：戦後欧州の統合運動の開始② 欧州統合とアメリカ</p> <p>第12回：欧州石炭鉄鋼共同体の設立① モネの活躍</p> <p>第13回：欧州石炭鉄鋼共同体の設立② ECSCの特徴</p> | | | |

第14回：政治統合の挫折と経済統合からの再出発① 連邦主義と超国家主義

第15回：政治統合の挫折と経済統合からの再出発② 新機能主義的統合

定期試験

テキスト

金丸輝男編『ヨーロッパ統合の政治史』有斐閣、1996年

参考書・参考資料等

鷲江義勝編『EU ー欧州統合の現在ー』創元社、2020年。

学生に対する評価

期末試験の成績(80点程度)に平常点(20点程度)を加味して評価する。希望がある場合答案を通して振り返りの機会を設ける予定である。

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|-----------|
| 授業科目名：地域統合 論2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：富川尚 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際地域統合では必然的に国家を超えた地域の運営が必要になってくる。その方法は多くの国際組織が試行錯誤を繰り返しながら模索している最中であり、EUもその発展に伴って運営方法を発達させてきている。国際社会のあり方にも大きな影響を与え続けている統合組織の制度的発展を理解することを目標とする。そして今後の世界のあり方を考えるヒントをつかんでもらいたいと考えている。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、特に制度的発展に着目しながら、EUの現代までの歴史をたどっていきたいと考えている。EUの超国家的な運営方式は国連改革にあたって参考にされるなど、様々な国際組織に強い影響を与え続けている。受講生も理想的な国際関係像を描く際にEUのプラス面やマイナス面を参考にしてもらいたい。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：EUの基礎知識 近年の動向</p> <p>第2回：独仏枢軸の確立① 政府間主義と超国家主義</p> <p>第3回：独仏枢軸の確立② 独仏条約の意義</p> <p>第4回：欧州統合の危機とその後の深化と拡大① ルクセンブルクの妥協</p> <p>第5回：欧州統合の危機とその後の深化と拡大② 多数決制の導入</p> <p>第6回：欧州理事会の誕生① 首脳のパートナーシップ</p> <p>第7回：欧州理事会の誕生② リーダーシップの確保</p> <p>第8回：統合のあり方を巡る論争の激化① EUと外交</p> <p>第9回：統合のあり方を巡る論争の激化② EUと通貨</p> <p>第10回：連邦的統合を推進する① 超国家主義的制度の確立</p> <p>第11回：連邦的統合を推進する② 政策領域の拡大と補完性原理</p> <p>第12回：欧州憲法の運命と欧州ガバナンス① 民主主義の赤字と立憲主義の適用</p> <p>第13回：欧州憲法の運命と欧州ガバナンス② リスボン条約の発効</p> <p>第14回：欧州経済危機とその対応</p> <p>第15回：地域統合の将来</p> | | | |

定期試験

テキスト

金丸輝男編『ヨーロッパ統合の政治史』有斐閣、1996年、

参考書・参考資料等

鷺江義勝編『リスボン条約による欧州統合の新展開 EUの新基本条約』ミネルヴァ書房、2009年。福田耕治編『多元化するEUガバナンス』早稲田大学出版部、2011年。

学生に対する評価

期末試験の成績(80点程度)に平常点(20点程度)を加味して評価する。希望がある場合答案を通して振り返りの機会を設ける予定である。

| | | | |
|--|----------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名： 国際人権論 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 藤本晃嗣 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代国際法の特徴の一つで、現代国際社会の特徴でもある「国際人権保障」について理解することが講義の到達目標である。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>未曾有の惨事を招いた第二次世界大戦の原因が日本やドイツといった国家による人権蹂躪にあることが、戦後国際社会で認識され、国際的な人権保障体制の確立が求められるようになった。その結果、国際連合は、「国際人権章典」を定めるなどして、国際的な人権保障が国際社会の平和にとって必要不可欠であると認識されるにいたった。こうした過程と国際人権保障を支えるルール（国際人権法）を学習する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：人権、国際人権、国際人権法とは？</p> <p>第2回：国際人権法前史</p> <p>第3回：人権問題の国際化～国内問題から国際問題へ</p> <p>第4回：第二次世界大戦と人権問題</p> <p>第5回：国際人権章典の成立1～世界人権宣言</p> <p>第6回：国際人権章典の成立2～国際人権規約</p> <p>第7回：人権の普遍化？とウィーン宣言及び行動計画</p> <p>第8回：国際人権と日本1－国際人権規約</p> <p>第9回：国際人権と日本2－インドシナ難民、UNHCRと条約難民の保護、国内避難民の保護</p> <p>第10回：国際人権と日本3－人種差別撤廃条約とヘイトスピーチ</p> <p>第11回：国際人権と日本4－障害者権利条約と障害者の権利保障</p> <p>第12回：国際連合と国際人権保障体制1－国連人権委員会</p> <p>第13回：国際連合と国際人権保障体制2－国連人権理事会</p> <p>第14回：国際連合とアパルトヘイト</p> <p>第15回：ビジネスと人権関係（SDGsを含む）</p> <p>定期試験</p> | | | |
| テキスト | | | |

芹田健太郎他『コンパクト学習条約集〔第3版〕』信山社、2020年

参考書・参考資料等

阿部浩己他『テキストブック国際人権法（第3版）』日本評論社、2009年、芹田健太郎ほか『ブリッジブック国際人権法』信山社、2008年。

学生に対する評価

出席と学期末試験に基づいて総合評価だが、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

| | | | |
|--|---|-------------|----------------|
| 授業科目名： 国際人権論2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 藤本晃嗣 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(中学校社会、高等学校公民) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 法律学、政治学 ・ 法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。) | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際人権法が定める人権保障の水準と国際人権条約の履行監視機関の役割を理解することが、講義の到達目標である。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>国際人権条約は、締約国が国際人権基準を遵守しているかどうかを監視するための履行監視機関を有している。この機関の判断は、現代国際法の発展に寄与するとともに、日本も含めた各国の人権状況の向上にも役立っている。そこで、この講義では、履行監視機関の判断を人権カタログごとに紹介する。そのうえで、これに関連する日本の人権状況を紹介し、受講生に日本の人権状況を見直す機会を提供する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：国際人権条約と批准</p> <p>第2回：国際人権条約の日本の裁判所での直接適用</p> <p>第3回：国際人権条約の日本の裁判所での間接的適用</p> <p>第4回：自由権規約委員会と報告書審査</p> <p>第5回：日本と報告書審査—先住民問題</p> <p>第6回：日本と報告書審査—「代用監獄」問題</p> <p>第7回：社会権規約委員会と報告書審査</p> <p>第8回：日本と報告書審査—災害問題</p> <p>第9回：女性差別撤廃委員会とジェンダー</p> <p>第10回：自由権規約委員会と個人通報審査</p> <p>第11回：個人通報審査と出入国管理</p> <p>第12回：欧州、米州、アフリカの各地域での国際人権保障</p> <p>第13回：欧州評議会での拷問の絶対的禁止—欧州人権裁判所の実行</p> <p>第14回：欧州評議会での拷問の絶対的禁止—欧州拷問等房委員会の実行</p> <p>第15回：「文化」と国際人権—ムスリム女性のスカーフ着用問題</p> <p>定期試験</p> | | | |
| <p>テキスト</p> <p>芹田健太郎他『コンパクト学習条約集〔第3版〕』信山社、2020年</p> | | | |

参考書・参考資料等

阿部浩己他『テキストブック国際人権法（第3版）』日本評論社、2009年、芹田健太郎ほか『ブリッジブック国際人権法』信山社、2008年。

学生に対する評価

出席と学期末試験などに基づいて総合評価だが、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

| | | | |
|--|---------------------------|--------------|----------------|
| 授業科目名： 国際機構論 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 藤本晃嗣 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際社会に一定の影響力を及ぼしている国際機構について理解を深めることが講義の到達目標である。国際連盟や国際連合などを題材に、国際機構が誕生する背景やそれが国際社会に及ぼしている影響力を検討していく。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>一般的に国際機構の歴史は19世紀後半にまで遡るが、今日の国際社会で最も強い影響力をもっているのは、国際の平和と安全の維持を目的とする「国際連合」である。しかし、戦後60年を過ぎた現代において、国際連合を取り巻く環境は激変し、数多くの問題が集積している。国連が抱える問題は、今後の国際社会に想像以上の影響を及ぼすことになるであろう。本講義では、国際機構の歴史的・理論的背景を確かめつつ、国際連盟と国際連合の基礎的な知識を日本の状況と絡めながら学習することに力を入れたい。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：国際社会の組織化と国際機構-国際機構とは何か</p> <p>第2回：国際機構の歴史1－ヨーロッパ協調</p> <p>第3回：国際機構の歴史2－ハーグ平和会議</p> <p>第4回：国際機構の歴史3－国際行政連合、ヴェルサイユ体制など</p> <p>第5回：国際連盟1－始動</p> <p>第6回：国際連盟2－委任統治制度</p> <p>第7回：国際連盟3－集団安全保障</p> <p>第8回：国際連合の成立</p> <p>第9回：国際連合の主要機関1－総会</p> <p>第10回：国際連合の主要機関2－安全保障理事会、集団安全保障</p> <p>第11回：国際連合の主要機関3－経済社会理事会</p> <p>第12回：国際連合の主要機関4－国際司法裁判所</p> <p>第13回：国際連合の主要機関5－信託統治理事会</p> <p>第14回：国際連合と平和維持活動</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p> | | | |

テキスト

芹田健太郎他『コンパクト学習条約集〔第3版〕』信山社、2020年

参考書・参考資料等

最上敏樹『国際機構論（第2版）』東京大学出版会、2006、家正治他『講義国際組織入門』不磨書房、2003

学生に対する評価

出席と学期末試験に基づいて総合評価だが、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

| | | | |
|--|---------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名： 国際機構論2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 藤本晃嗣 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科目 | 「教科及び教科の指導法に関する科目」(中学校社会) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | ・法律学、政治学 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際機構の1つである世界貿易機関（WTO）を講義のテーマとすることで、受講生が国際社会を多角的な視点から分析し、検証する能力を身に付けられるようにすることが、本講義の到達目標である。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>現代の国際社会の自由貿易体制の推進に大きな役割を果たしてきたWTOについて学ぶ。より具体的には、WTO成立までの過程、国際機構としてのWTO、WTOが定める自由貿易における基本的規律、WTO成立後の国際社会について学んでいくことで、国際経済環境の現状と日本が置かれている状況や問題点を提起したい。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：自由貿易体制前史</p> <p>第2回：ITO設立の頓挫</p> <p>第3回：ブレトンウッズ・ガット体制の成立</p> <p>第4回：ブレトンウッズ・ガット体制の展開－ガットの国際機構化</p> <p>第5回：ブレトンウッズ・ガット体制の展開－ウルグアイラウンド</p> <p>第6回：WTOの設立</p> <p>第7回：WTOの構造</p> <p>第8回：WTO協定の構造－WTO設立協定と4つの附属書</p> <p>第9回：WTOと紛争解決手続</p> <p>第10回：WTO体制の基本的規律－最恵国待遇</p> <p>第11回：WTO体制の基本的規律－最恵国待遇とその例外、FTA</p> <p>第12回：WTO体制の基本的規律－内国民待遇</p> <p>第13回：WTO体制における規律の拡大－農業貿易</p> <p>第14回：WTOと通商救済制度</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p> | | | |
| <p>テキスト</p> <p>芹田健太郎他『コンパクト学習条約集〔第3版〕』信山社、2020年</p> | | | |

参考書・参考資料等

家正治他『講義国際組織入門』不磨書房、2003、UFJ総合研究所新戦略部通商ユニット『WTO入門』日本評論社、2004

学生に対する評価

出席と学期末試験などに基づいて総合評価だが、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

| | | | |
|---|----------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名：社会学1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 渡邊 登 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現実に生起する社会的諸事象を社会学的視点から客観的に把握できる力を身につけることを目標とする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>社会学的視点として、社会学的想像力（C.W.ミルズ）に定位し、日常生活で日々繰り返される営為の自明性を問うこと（自明性の暴露）と措定する。具体的には家族、労働、メディア、政治と私たちとの関係をラベリング論、社会構築論、機能論（R.K.マートン）、ジェンダー論等を用いて明らかにし、社会学的な考え方を取得する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：社会学的考え方を学ぶー「常識」の相対化(1)社会学とは何かー我々の「常識」を疑う</p> <p>第2回：(2)ラベリング理論を学ぶ</p> <p>第3回：(3)予言の自己成就を学ぶ</p> <p>第4回：(4)応用編1ー社会学的視点からドキュメンタリーを読み解く 1</p> <p>第5回：(5)応用編2ー社会学的視点からドキュメンタリーを読み解く 2（メディア・リテラシー）</p> <p>第6回：(6)潜在的機能と顕在的機能を学ぶ</p> <p>第7回：(7)役割理論ー「役割と地位」を学ぶ</p> <p>第8回：現代社会を読み解く ジェンダー・センシティブな社会へ(1) 既存の「女らしさ」「男らしさ」の揺れ</p> <p>第9回：現代社会を読み解く ジェンダー・センシティブな社会へ(2) 家族の揺らぎー既存の性別役割への異議申し立て</p> <p>第10回：現代社会を読み解く 温暖化を考える(1)</p> <p>第11回：現代社会を読み解く 温暖化を考える(2)</p> <p>第12回：現代社会を読み解く 温暖化を考える(3)</p> <p>第13回：社会学と社会調査ー社会学における問題の定式化と社会調査の持つ意味 (1) 因果関係の確定</p> <p>第14回：(2) 社会調査の持つ意味</p> <p>第15回：まとめー社会学のおもしろさとは！</p> | | | |

| |
|---|
| 定期試験 |
| テキスト なし |
| 参考書・参考資料等 R.K.マートン（森東吾他訳）『社会理論と社会構造』みすず書房、1961年 他 |
| 学生に対する評価 通常点(出席点と単元毎の課題レポートと定期試験結果を総合的に判断する。 通常点50%，定期試験50% |

| | | | |
|--|----------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名：社会学2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 渡邊 登 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>各自が具体的な社会的課題を指定し、本講義で学んだアプローチを用いてその解決策に取り組むことを目的とする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>社会学の基本的な視点として「社会学的想像力（C.W.ミルズ）に基づいて、日常生活で日々繰り返される営為の自明性を問うこと（自明性の暴露）」を学んだ人を対象とし、地域社会、家族、女性、マスメディア、環境問題等を素材として、それぞれの領域において解決が迫られている具体的な課題に対してジェンダー論、社会構築主義、受益圏・受苦圏論、環境リスク論からアプローチを試みる。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：現代社会の特徴(1)現代社会の変化と国民意識の変化(2)高度情報化社会と国民生活</p> <p>第2回：女性問題を考える (1)ジェンダーの社会学</p> <p>第3回：(2) ジェンダー・センシティブの社会を目指して</p> <p>第4回：家族問題を考える(1)構造・形態・機能(2)現代家族の変容(3)家族と地域社会</p> <p>第5回：環境社会学の視点から環境問題を考える①</p> <p>第6回：環境社会学の視点から環境問題を考える②—新潟水俣病を考える（前編）</p> <p>第7回：環境社会学の視点から環境問題を考える②—新潟水俣病を考える（後編）</p> <p>第8回：環境社会学の視点から環境問題を考える④—温暖化・脱炭素問題</p> <p>第9回：環境社会学の視点から環境問題を考える⑤—温暖化/脱炭素問題</p> <p>第10回：環境社会学の視点から環境問題を考える⑥—地域から考える</p> <p>第11回：都市問題を考える(1)都市化と都市的生活様式</p> <p>第12回：(2)都市的生活様式の問題点</p> <p>第13回：(3)コミュニティとは</p> <p>第14回：(4)地域社会の社会集団・組織：住民組織を中心に</p> <p>第15回：総括</p> <p>定期試験</p> | | | |
| テキスト | | | |

なし

参考書・参考資料等

飯島伸子・鳥越皓之他編『講座環境社会学 第1巻 環境社会学の視点』（有斐閣、2001、I
SBN 4-641-07192-6）他

学生に対する評価

通常点(出席点と毎月1回程度授業の課題提出)と定期試験結果を総合的に判断する。

通常点40%，定期試験60%

| | | | |
|--|---------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名： 経済学1 | 教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目 選択 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 房 文慧 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科および指導法 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>経済学1とは、近代経済学のマクロ経済学を中心に学び講義する。私たちの社会においてさまざまな経済活動がどのように営まれ、その営まれた結果が私たちの生活にどのような影響を及ぼしているか、また私たちの暮らしを良くするにはどうしたらよいか、といったことを研究する学問である。</p> <p>このようなことを意識しながら、経済学をはじめて学ぶ学生達に経済学の基本を習得し、新聞・テレビ等によく見かけた経済的課題を理解し、考える力・生きる力を身に付けるのがこの授業の目標とする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義は、マクロ経済学という分野の基本的な概念、視角、考え方を学ぶことを通じて行うことになる。少子・高齢化問題が深刻化する日本経済を再建するための政策、および地域経済の活性化、国際経済とりわけアジア経済の現状、世界的財政危機など課題との関連を学んでいく。</p> <p>上述の課題を理解するための基礎理論を身に付けることを目指す。本授業での学習によって、国際感覚を備えた教養を培うことができる。</p> | | | |
| <p>授業計画（講義15回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：経済学とは何か、経済学の考え方、経済学の分野 2. 国民所得の諸概念(1) 3. 国民所得の諸概念(2) 4. 支出・生産・分配からみたGDP 5. 三面等価の原則 6. 総需要と総供給 一般均衡・価格決定メカニズム 7. 総需要と総供給 インフレーション・デフレーションなど 8. セーの法則と有効需要の原理 9. 投資の乗数理論 10. 資産市場とその特徴 11. 貨幣と金利、資産と金融 12. 貨幣の需要と供給 | | | |

13. IS—LM分析、など

14. マクロ的政策目標と政策手段

15. 演習などでまとめ

定期試験

テキスト

毎回、授業資料を作成、配布する。

参考書・参考資料等

藤元重、下井直毅 『マクロ経済学 パーフェクトマスター第2版 単行本』日本経済評論社、2014年4月

伊藤元重 『入門経済学 第4版』日本評論社、2015年2月

ほかには授業内容に応じて適宜に紹介する。

学生に対する評価

出席率が70%以上のうえで、学期末試験、および各部分のミニレポートに基づき総合的に評価する。予習と復習にそれぞれ1時間以上が望ましい。身近あるいは地域の経済現状をみながら学習を進めるという科目設定のため、常に周りの変化に注目するよう指導。評価する。クラスルームにおいては講義出席を確認したり、課題を課しレポートを提出したりする。

| | | | |
|--|---------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名： 経済学2 | 教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目 選択 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 房 文慧 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科および指導法 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>経済学をはじめて学ぶ学生にミクロ経済学の基本を習得し、賢い生活者を目指す消費者理論と、企業など組織の経営理念および経営戦略を認識して理解することができる生産者理論を学習する。さらに新聞・テレビ等をよく出てある経済問題を理解し、考える力・生きる力を身に付けるのがこの授業の目標である。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本授業では、ミクロ経済学という分野の基本的な概念、所与の情報、学説を学ぶことを通じて、国民経済を構成する個別経済主体である消費者・生産者に関する各々の行動および依存関係・相反関係を考察する。さらに「世界経済とは私達の日常生活と何の関係があるのか」に対して、わかりやすく解説する。</p> <p>それらの基本と経済学関係構築を理解することができる能力を身に付けることを目指す。本授業でこのような学習によって、賢い消費者と生産者の行動原理が理解し、さらに国際人としての国際感覚を備えた教養を培うことができる。</p> | | | |
| <p>授業計画（講義15回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学とマクロ経済学との異同 2. 経済成長と産業振興 3. 経済発展とサービス化 4. 消費者理論(1) 5. 消費者理論(2) 6. 所得変化・価格変化と消費者行動 7. 生産者理論(1) 8. 生産者理論(2) 9. 利潤最大化 10. パレート最適 11. 市場の失敗 12. 不完全競争市場・市場構造・市場行動 13. 政府の失敗 14. 競争政策と規制政策 | | | |

15. 演習などでまとめ

定期試験

テキスト

毎回、授業資料を作成、配布する。

参考書・参考資料等

伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社、2007年11月

伊藤元重『入門経済学』日本評論社、2015年2月

ほかには授業内容に応じて適宜に紹介する。

学生に対する評価

出席率が70%以上のうえで、学期末試験、および各部分のミニレポートに基づき総合的に評価する。予習と復習にそれぞれ1時間以上が望ましい。身近あるいは地域の経済現状をみながら学習を進めるという科目設定のため、常に周りの変化に注目するよう指導。評価する。クラスルームにおいては講義出席を確認したり、課題を課しレポートを提出したりする。

| | | | |
|--|--------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名：文化人類学1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 長坂康代 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科および指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>文化人類学は、私たち人間にとって文化とは何かを考えるための学問です。現代社会では、異なる地域や国々に生きる人々との交流がますます盛んになってきています。異なる文化を背景に生活してきた人間同士が、お互いを理解し合うのは難しい問題です。多くの場合、どこかで何かの行き違いが生まれてしまいます。それは相互に異なる言語を、文化を越えて翻訳することに似ています。Aという言葉、Bという言葉に完全に移し替えることができないのと同じことです。それは言葉にはそれぞれ異なった文化的な背景があるからです。</p> <p>こうしたことをふまえて、本講義では「人間とは何か」をキーワードにして、さまざまな文化について考えてゆきます。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>異なる文化を理解するには、その背景を理解することが必要です。そこで前期は、それぞれの文化を支えている言語と文化の関係や人は他者とどのような関係を取り結ぶのかなど、人類学の理論を中心に学んでゆきます。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：文化人類学とは</p> <p>第2回：南北問題：文化の見方、考え方</p> <p>第3回：文化相対主義：文化は平等である</p> <p>第4回：冗談関係と忌避関係：人間関係の構築の方法</p> <p>第5回：物理体力と文化体力：年長者の知恵</p> <p>第6回：自文化と他文化：比較で自分の文化を知る</p> <p>第7回：進化論と伝播論：文化は繋がっている</p> <p>第8回：村入り：コミュニティに入るということ</p> <p>第9回：クラ交換：互いに助け合う工夫</p> <p>第10回：アジアの地域から社会を問う：甘いバナナの苦い現実</p> <p>第11回：伝統の創造：伝統はつくりだすもの</p> <p>第12回：観光と人類学：観光という外部の視点が文化を見つめ直す</p> <p>第13回：2つの文化理解のアプローチ（1）ベトナムの路上茶屋から文化を考える</p> | | | |

第14回：2つの文化理解のアプローチ（2）台湾と韓国在住ベトナム人コミュニティの比較

第15回：前期のまとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

文化人類学入門（祖父江孝男著、中公新書）

文化人類学 カレッジ版（波平恵美子著、医学書院）

学生に対する評価

レポート試験（40%）、授業中の毎回の小レポート（60%）

| | | | |
|---|--------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名：文化人類学2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 長坂康代 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科および指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>私たちは自分の文化についてよりよく理解するための鏡を探しています。異文化を理解するためには、何よりも自分の文化を理解することから始めなければなりません。</p> <p>本講義では、前期に引き続き人間にとって文化とは何かを考えてゆきます。人はどのようにして自分と他者を分けるのでしょうか。世界をどのようにして分類し、認識するのでしょうか。こうしたことを考えるための材料を人生儀礼に沿って提供してゆく予定です。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>人はどのようにして人生を乗り越えてきたのか、適応してきたのか。生まれてから死ぬまでの人生、宗教や信仰、儀礼と、それを支える世界観について考えてゆきます。そこから、自分を見つめ直せるようにします。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：比較文化の考え方</p> <p>第2回：通過儀礼と境界</p> <p>第3回：異文化理解のアプローチ</p> <p>第4回：家族とは何か（1）親の概念</p> <p>第5回：家族とは何か（2）生殖と親子関係</p> <p>第6回：家族とは何か（3）代理母と取り巻くビジネス</p> <p>第7回：家族とは何か（4）血縁について考える特別養子縁組</p> <p>第8回：交換の人類学：ポトラッチ交換</p> <p>第9回：経済人類学：互酬性</p> <p>第10回：日常のなかの宗教（1）人々が求めてきた宗教観念</p> <p>第11回：日常のなかの宗教（2）新潟のイスラム教徒</p> <p>第12回：アイヌの遺骨返還と葬送儀礼</p> <p>第13回：医療人類学（1）西洋医学と伝統医療</p> <p>第14回：医療人類学（2）臓器提供と臓器売買</p> <p>第15回：医療人類学（3）安楽死を問う</p> <p>定期試験は実施しない。</p> | | | |

| |
|--|
| テキスト |
| 授業中に適宜資料を配布する。 |
| 参考書・参考資料等 |
| 文化人類学入門（祖父江孝男著、中公新書） 文化人類学 カレッジ版（波平恵美子著、医学書院） |
| 学生に対する評価 |
| レポート試験（40%）、授業中の毎回の小レポート（60%） |

| | | | |
|--|---|-------------|--------------------------------|
| 授業科目名：欧米文化 論1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 丸島 宏太 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマは「徴兵制と近代ヨーロッパ社会」である。兵隊とは何者か。この問いかけがこの講義の核をなす。今日でも話題に上る徴兵制は近代西欧の国民国家発展の中で実現した制度で、そこでは兵士とは男子国民そのものである。しかし前近代には、兵士になるのはそれを職業として選んだ人や下層民、あるいは素性のわからない人たちだった。軍隊のあり方は、時代によって大きく変わる。この講義では、兵士の世界から見た軍隊を文化史的に考察することを目標とする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>講義では徴兵制が早くから発達したドイツにおもに焦点を当て、19世紀初頭にプロイセンで成立した一般兵役義務の制度がいかにヨーロッパ全体に広がったか、また、この制度が社会の構造、人々の意識にどのような影響を与えたかを考察する。近代国家において軍隊は、戦闘のための組織に留まらず、一人前の国民を育成するための修練の場でもあった。ふつうの若者が兵役を通じていかに規律化され、いかに国民意識を植え付けられたか、彼のその後の人生に兵役体験がいかなる影響を与えたか、こういった問題を考えるのが本講義である。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：歴史の中の兵役制度</p> <p>第2回：軍事国家プロイセンの台頭</p> <p>第3回：カントン制度</p> <p>第4回：近世に兵隊に行った人々</p> <p>第5回：フランス革命と「武装せる国民」の誕生</p> <p>第6回：プロイセンにおける一般兵役義務の成立</p> <p>第7回：職業軍隊か、兵役義務の軍隊か</p> <p>第8回：国民的体験としてのドイツ統一戦争</p> <p>第9回：良兵・良民</p> <p>第10回：入営、兵営生活、退役後</p> <p>第11回：社会の軍事化、民衆の軍事化</p> | | | |

第12回：政府の側からの軍事化
第13回：民衆の側からの軍事化
第14回：軍隊とジェンダー
第15回：国民国家的現象としての社会の軍事化
定期試験

テキスト
用いない

参考書・参考資料等

ラルフ・プレーヴェ『19世紀ドイツの軍隊・国家・社会』（創元社）
丸島宏太 他編著『近代ヨーロッパの探求12 軍隊』（ミネルヴァ書房）
三宅正樹 他編著『ドイツ史と戦争 「軍事史」と「戦争史」』（彩流社）
鈴木直志『ヨーロッパの傭兵』（山川出版社）

学生に対する評価

期末テストを最重視するが、授業中に随時、授業にたいする感想や質問、要望などを書いてもらい、評価の補助とする。

| | | | |
|--|---|-------------|----------------------------|
| 授業科目名：欧米文化 論2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 丸島 宏太 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマは「シュテファン・ツヴァイクと昨日の世界」である。19世紀末の「古きよきヨーロッパ」から2つの世界大戦に至るまでの時代を、この時代に生きた作家ツヴァイクの文章に即して辿り、近代社会から現代社会への転換とそれともなうヨーロッパの変容を、文化史の視角から理解するのが、この講義の目標である。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>マリー・アントワネットの伝記などで有名なユダヤ系オーストリア人の作家シュテファン・ツヴァイク（1881－1942）は、最晩年に自分の生きた時代の遺書として「昨日の世界」という作品を書き上げた。この講義ではこの作品を手がかりに、ツヴァイクがこよなく愛した古きよきヨーロッパが2つの世界大戦を経て大きく変化し、没落していくさまを、政治・社会・文化・日常などいろいろな側面から考察する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：作家ツヴァイクとヨーロッパ市民社会</p> <p>第2回：二重革命の時代</p> <p>第3回：19世紀末までのヨーロッパ</p> <p>第4回：大都市ウィーンの栄光と陰</p> <p>第5回：ブルジョワジーの台頭と市民文化</p> <p>第6回：学校と日常</p> <p>第7回：反ユダヤ主義</p> <p>第8回：帝国主義の時代</p> <p>第9回：敵意の増幅</p> <p>第10回：第一次世界大戦前夜</p> <p>第11回：同時代人の見た第一次世界大戦</p> <p>第12回：ヨーロッパの没落はじまる</p> <p>第13回：ヒトラーの台頭とツヴァイクの運命</p> <p>第14回：第二次世界大戦へ</p> <p>第15回：昨日のヨーロッパ、今日のヨーロッパ</p> | | | |

| |
|---|
| 定期試験 |
| テキスト 用いない |
| 参考書・参考資料等 シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』上・下（みすず書房） 田口晃『ウィーン 都市の近代』（岩波新書） エリック・ホブズボーム『帝国の時代』上・下（みすず書房） 河原忠彦『シュテファン・ツヴァイク ヨーロッパ統一幻想を生きた伝記作家』（中公新書） |
| 学生に対する評価 期末テストを最重視するが、授業中に随時、授業にたいする感想や質問、要望などを書いてもらい、評価の補助とする。 |

| | | | |
|--|----------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 国際経済論 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 道上 真有 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会，高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 国際経済情勢を理解する上で重要な国際貿易の基礎理論について学ぶ。国際貿易の基礎知識に基づき、国際経済に関するニュースを理解し説明できる力をもつことを目標とする。 | | | |
| 授業の概要 国際貿易についての基礎的な理論や用語を理解するために、輸出入関税の効果、直接投資、貿易保護政策や比較優位理論、プロダクト・サイクル論、経済成長論、国際収支の基礎について学ぶ。また、自由貿易協定などの国際枠組みについても授業する。 | | | |
| 授業計画 第1回：イントロダクション：国際経済論の基礎知識 第2回：輸出品目と輸入品目はどのように決まるのか？：絶対優位と比較優位 第3回：貿易のメリットと国際分業：比較優位 第4回：比較優位の理論のまとめ：図による理解 第5回：貿易のメリット：消費者利益と生産者利益 第6回：貿易と経済成長（1）：生産要素，労働集約，資本集約，知識集約 第7回：貿易と経済成長（2）：要素賦存量，技術進歩 第8回：貿易と経済成長（3）：プロダクト・サイクルモデル，雁行型経済発展 第9回：貿易政策：幼稚産業保護政策，関税 第10回：国際貿易の枠組み：WTO，自由貿易協定，経済連携協定 第11回：通商問題，貿易摩擦，為替レート 第12回：国際貿易と地域統合：EU 第13回：国際収支の基礎 第14回：国際収支表 第15回：まとめ 定期試験 | | | |
| テキスト テキストは使用せず，配布資料に基づいて授業を行う。 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |

浦田秀次郎，小川英治，澤田康幸著『初めて学ぶ国際経済（新版）』有斐閣アルマ，2022年，ほか，授業中に適宜紹介，配布する。

学生に対する評価

定期試験（70％），中間レポート（20％），授業中の発言点（10％）で評価する。中間レポートを実施しないときは，定期試験（80％），授業中の発言点（20％）で評価する。

| | | | |
|--|----------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名： 国際経済論 2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 道上 真有 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会，高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| 国際経済情勢を理解する上で重要な国際金融の基礎理論と国際経済秩序の歴史と現状について学ぶ。国際金融や国際経済秩序の基礎知識に基づき，国際経済に関するニュースを理解し説明できる力をもつことを目標とする。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 国際金融についての基礎的な理論や用語を理解するために，外国為替相場制度，為替レートの決定要因について学ぶ。また，技術と成長の関係，貿易構造の変化，アジア型成長の特徴や，国際経済秩序の歴史・現状・今後の展望についても授業する。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：イントロダクション：国際貿易と国際金融 | | | |
| 第2回：外国為替の仕組み：為替，並為替，逆為替 | | | |
| 第3回：外国為替と為替相場の仕組み：コルレス取引，市場の参加者 | | | |
| 第4回：外国為替相場制度：固定相場と変動相場の歴史 | | | |
| 第5回：外国為替相場（レート）の変動要因（1）：長期的要因，購買力平価 | | | |
| 第6回：外国為替相場（レート）の変動要因（2）：購買力平価と内外価格差 | | | |
| 第7回：外国為替相場（レート）の変動要因（3）：中短期での変動要因，介入 | | | |
| 第8回：外国為替相場（レート）の変動要因（4）：アセット，機体金利 | | | |
| 第9回：経済連携協定で変わる私たちの生活：農業，鉱業，消費者利益，生産者利益 | | | |
| 第10回：今後の世界経済とアジア（1）：国際通貨，80年代までのアジアの成長 | | | |
| 第11回：今後の世界経済とアジア（2）：90年代からの新しいアジアの成長モデル | | | |
| 第12回：アジアの域内貿易の深化：国家から地域連携へ | | | |
| 第13回：今後の世界経済の課題（1）：金融支配型資本主義から新しい資本主義 | | | |
| 第14回：今後の世界経済の課題（2）：ロシアのウクライナ侵攻による変化 | | | |
| 第15回：今後の世界経済の課題（3）：経済制裁の影響とその副作用，分断を越えて | | | |
| 定期試験 | | | |
| テキスト | | | |
| テキストは使用せず，配布資料に基づいて授業を行う。 | | | |

参考書・参考資料等

浦田秀次郎，小川英治，澤田康幸著『初めて学ぶ国際経済（新版）』有斐閣アルマ，2022年，ほか，授業中に適宜紹介，配布する。

学生に対する評価

定期試験（70％），中間レポート（20％），授業中の発言点（10％）で評価する。中間レポートを実施しないときは，定期試験（80％），授業中の発言点（20％）で評価する。

| | | | |
|--|----------------------------------|--------------|----------------|
| 授業科目名： 地球環境経済論 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目： | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 房 文慧 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 地球環境問題と経済成長の両立を理解するための基礎を習得する。 持続可能な発展論、地球温暖化と国際的枠組（COP）、公害問題、地球規模の汚染、生物多様性の減少を主要なテーマとする。 | | | |
| 授業の概要 今地球は、気候変動・地球温暖化をはじめ、さまざまな広域的な環境問題の危機に直面している。地球環境問題の原因は人間の経済活動にあることに「疑う余地がない」。一方、人間を含む地球に生存する生命が環境問題の危機に晒されている。人間の経済活動は、自然資源や生態系を過剰に利用することにより、地球環境に大きな損害を被らせる。地球環境の危機を回避するため、経済成長と環境保全の両立を図らなければならない。本講義では、環境と経済の関連に着目し、主要な地球環境問題を取り上げ、その現状と経済的要因、および国際的な取り組みを解説する。 | | | |
| 授業計画（15回） 1序章：イントロダクションー地球環境問題総論 2持続可能な発展論の系譜 3持続可能な発展論の新展開 4持続可能な開発目標(SDGs) 5 SDGsと地球環境問題 6地球温暖化の仕組みと原因 7地球温暖化とグリーン経済 8気候変動に関する国際枠組み(COP) 9地球環境経済とCOPの役割 10主要国の温暖化対策(1)：欧米、日本 11主要国の温暖化対策(2)：中国、インド 12排出権取引市場の経済的メカニズム 13主要国の排出権取引市場の事例(1)：欧米 14主要国の排出権取引市場の事例(2)：アジア | | | |

15 総括：地球沸騰化回避への課題

定期試験

テキスト

毎回、授業資料を作成、配布する。

参考書・参考資料等

栗山浩一、馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ』（第4版）有斐閣出版、2021年9月

浜本光紹著『環境経済学入門講義』創成社、2021年3月植田和弘『緑のエネルギー原論』岩波書店、2013年

宇沢弘文『経済と人間の旅』日本経済新聞出版社、2014年

前田章『ゼミナール環境経済学入門』日本経済新聞社、2010年

宇沢弘文『地球温暖化の経済学』岩波書店、1995年

ほかには講義内容に応じて適宜に指示する。

学生に対する評価

出席率が70%以上のうえで、学期末試験、および各部分のミニレポートに基づき総合的に評価する。予習と復習にそれぞれ1時間以上が望ましい。身近あるいは地域の経済現状をみながら学習を進めるという科目設定のため、常に周りの変化に注目するよう指導。評価する。クラスルームにおいては講義出席を確認したり、課題を課しレポートを提出したりする。

| | | | |
|--|----------------------------------|--------------|----------------|
| 授業科目名： 地球環境経済論 2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 房 文慧 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地球環境問題と経済成長の両立を理解するための基礎を習得する。</p> <p>持続可能な発展論、地球温暖化と国際的枠組（COP）、公害問題、地球規模の汚染、生物多様性の減少を主要なテーマとする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>今地球は、気候変動・地球温暖化をはじめ、さまざまな広域的な環境問題の危機に直面している。地球環境問題の原因は人間の経済活動にあることに「疑う余地がない」。一方、人間を含む地球に生存する生命が環境問題の危機に晒されている。人間の経済活動は、自然資源や生態系を過剰に利用することにより、地球環境に大きな損害を被らせる。地球環境の危機を回避するため、経済成長と環境保全の両立を図らなければならない。本講義では、環境と経済の関連に着目し、主要な地球環境問題を取り上げ、その現状と経済的要因、および国際的な取り組みを解説する。</p> | | | |
| <p>授業計画（15回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 公害問題（酸性雨・大気汚染等）の原因や影響 3 公害問題（酸性雨・大気汚染等）に対する地域・国際的な取り組み 4 主要国の公害問題対策(1)：欧米 5 主要国の公害問題対策(2)：アジア 6 ゴミ処理と経済学 7 世界の海洋汚染の現状と要因海洋プラスチック汚染と脱プラ 8 世界と日本の脱プラスチック対策 9 地球の生物多様性危機の現状 10 生物多様性危機の経済的要因と危機の対策：レットリスト 11 日本の生物多様性危機：朱鷺の事例 12 地球の資源エネルギー問題 13 資源エネルギー問題の経済、環境への影響 14 原発と日本のエネルギー問題 | | | |

15 終章 自然と共生する地球を目指して

定期試験

テキスト

毎回、授業資料を作成、配布する。

参考書・参考資料等

栗山浩一、馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ』（第4版）有斐閣出版、2021年9月

浜本光紹著『環境経済学入門講義』創成社、2021年3月植田和弘『緑のエネルギー原論』岩波書店、2013年

宇沢弘文『経済と人間の旅』日本経済新聞出版社、2014年

前田章『ゼミナール環境経済学入門』日本経済新聞社、2010年

宇沢弘文『地球温暖化の経済学』岩波書店、1995年

ほかには講義内容に応じて適宜に指示する。

学生に対する評価

出席率が70%以上のうえで、学期末試験、および各部分のミニレポートに基づき総合的に評価する。予習と復習にそれぞれ1時間以上が望ましい。身近あるいは地域の経済現状をみながら学習を進めるという科目設定のため、常に周りの変化に注目するよう指導。評価する。クラスルームにおいては講義出席を確認したり、課題を課しレポートを提出したりする。

| | | | |
|---|----------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名：マーケティング論 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 富山栄子 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>マーケティングは、企業経営の中で、消費者に働きかけ、製品・サービスを提供し、売上げを実現するという重要な機能を果たしています。あらゆる企業や非営利組織や自治体などの組織は、顧客の要求に応えることができはじめて、ゴーイング・コンサーンが可能になります。本講義は、このような意義を持つマーケティングを具体的な事例を通じてその基礎的な知識を理解させることを目標とします。具体的には最初にマーケティングとは何なのか、マーケティングの要素にはどのようなものがあるのか、といったマーケティングの基本的な概念や考え方など本質を理解します。そのうえで、自らを取り巻く現象を分析、理解する能力を高めることをめざします。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、マーケティングの基礎的な知識を身につけ、ケーススタディによって実践的な知識の理解を深めていきます。なかでも、STP（市場細分化戦略、ターゲット市場選定、ポジショニング）とプロモーション戦略、製品戦略、流通チャネル戦略、価格戦略、リレーションシップマーケティングなどを中心に講義を行います。ケースでは、日本企業のマーケティングを取り上げ、企業の様々なマーケティング戦略や市場における多様なマーケティング的現象を見ていきます。また、実際に新発田市の企業見学を行い、企業のマーケティング戦略について説明を受け、企業から出されたマーケティング課題に対し学生らで検討し、企業へ提案していきます。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：マーケティング発想の経営とマーケティング論の成り立ち</p> <p>第2回：マーケティングの基本概念（顧客価値；SWOT、4Cs、4Ps、プロダクトライフサイクル）</p> <p>第3回：製品のマネジメント</p> <p>第4回：価格のマネジメント</p> <p>第5回：広告のマネジメント</p> <p>第6回：チャネルのマネジメント</p> <p>第7回：営業のマネジメント</p> <p>第8回：顧客関係のマネジメント</p> | | | |

第9回：ビジネスモデルのマネジメント

第10回：顧客理解のマネジメント

第11回：ブランド構築のマネジメント

第12回：社会責任のマネジメント

第13回：グローバルマーケティングのマネジメント

第14回：企業見学と具体的な企業のマーケティング戦略の事例

第15回：企業から出されたマーケティング課題について学生によるマーケティング戦略の提案

定期試験は実施しない

テキスト

富山栄子著『わかりすぎるグローバル・マーケティング』創成社、2005。

参考書・参考資料等

石井淳蔵・廣田章光・清水信年『1からのマーケティング 第4版』中央経済社、2020。

上田隆穂・青木幸弘編『マーケティングを学ぶ（上）（下）』中央経済社、2008、2009。

久保田 進彦、澁谷 覚、須永 努著『はじめてのマーケティング』有斐閣ストゥディア、2013

沼上 幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣アルマ、2008。

学生に対する評価

成績評価は期末試験の評点（50）、出席状況（20）、プレゼンテーション・ディスカッション（30）の3つを総合して行います。

| | | | |
|--|----------------------------------|-------------|-------------------------------|
| 授業科目名： マーケティング論 2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 富山栄子 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、デジタル・マーケティングについて学びます。最初に、デジタル・マーケティングが必要な背景、その内容について理解します。次に実際のデジタル・マーケティング戦略について事例使って理解していきます。最後にデジタル・マーケティングのマネジメントについて理解します。</p> <p>到達目標はデジタル・マーケティング諸理論とその応用法を学び、適切な戦略と戦術の立案ができるようになるための能力を身につけることにあります。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、デジタル・マーケティング諸理論をケーススタディを活用し、実践的に学びます。最初に、デジタル社会の特徴や、消費者行動、ビジネスモデルの変化等、デジタル・マーケティングの必要性とその背景について理解します。次に伝統的なマーケティング理論とその拡張理論について理解します。最後にデジタル・マーケティングを実践するためのツールやインフラを理解します。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：デジタル社会のマーケティングの特徴</p> <p>第2回：デジタル社会の消費者行動、カスタマー・ジャーニー、デジタル・リテラシー</p> <p>第3回：デジタル社会のビジネスモデル、プラットフォーム、ネットワーク効果</p> <p>第4回：デジタル・マーケティングの基本概念</p> <p>第5回：デジタル財、IoT等製品戦略の基本</p> <p>第6回：製品戦略の拡張理論、クラウドソーシング、イノベーション・コミュニティ</p> <p>第7回：価格戦略の基本理論、時期や顧客に対応したダイミック・プライシング</p> <p>第8回：価格戦略の拡張理論、消費者間取引のダイナミック・プライシング、電子決済</p> <p>第9回：チャンネル戦略の基本理論、ダイレクトモデル、オムニチャンネル</p> <p>第10回：チャンネル戦略の拡張理論、消費者間取引、シェアリング・エコノミー、</p> <p>第11回：プロモーション戦略の基本理論と拡張理論、トリプル・メディア、コンテンツ・マーケティング</p> <p>第12回：デジタル社会のリサーチ、探索的リサーチ、検証的リサーチ</p> | | | |

第13回：デジタル社会のロジスティクス、ロジスティクス、再配達

第14回：デジタル社会の情報システム、クラウド、アジャイル開発

第15回：デジタル・マーケティングのマネジメント

定期試験は実施しない

テキスト

西川英彦・澁谷覚編著『1からのデジタル・マーケティング』発行所：硯学舎、発売元：中央経済社、2018。

参考書・参考資料等

フィリップ・コトラー、ヘルマワン・カルタジャヤ、イワン・セティアワン『コトラーのマーケティング5.0 デジタル・テクノロジー時代の革新戦略』恩蔵 直人（監訳）、藤井 清美（翻訳）、朝日新聞出版、2021

近藤 公彦、中見 真也『オムニチャネルと顧客戦略の現在』千倉書房、2019.

久保田 進彦、澁谷 覚『そのクチコミは効くのか』有斐閣、2018.

山本 晶『キーパーソン・マーケティング：なぜ、あの人のクチコミは影響力があるのか』東洋経済新報社、2014。

学生に対する評価

成績評価は、期末試験（50点）、出席状況（20点）、プレゼンテーション・ディスカッション（30点）の合計100点満点で行います。

| | | | |
|---|----------------------------------|--------------|----------------|
| 授業科目名： 経済史 1 | 教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目： 選択 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 房 文慧 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科および指導法 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>海外の経済発展と比較しつつ、日本経済の成長過程を中心とした講義を行う。</p> <p>日本経済の繁栄を支えた原動力、およびその衰退を招いた要因を分析し、過去200年以上続いていた世界経済繁栄の中心がいかにも絶えず移動しているかを理解するための基礎を学ぶ。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、経済史を理解するための基礎を説明する。そのうえで、経済成長を始動した江戸時代中期から、明治維新时期における経済改革、その後の近代経済成長への移行といった経済発展の過程を取り上げ、日本の経済成長の初期条件を産業革命期からの他国の発展と比較して明らかにしていく。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：経済史の見方</p> <p>第2回：江戸時代の日本経済</p> <p>第3回：幕末開港の経済的インパクト</p> <p>第4回：明治維新の経済改革 全般</p> <p>第5回：明治維新の経済改革 地租改正</p> <p>第6回：殖産興業の開始</p> <p>第7回：通貨金融制度の整備、など</p> <p>第8回：大隈財政から松方財政への転換</p> <p>第9回：産業革命の意義</p> <p>第10回：欧米における産業革命、日本との比較</p> <p>第11回：軽工業の発達</p> <p>第12回：重工業の発達</p> <p>第13回：日清・日露戦争と財閥企業の勃興</p> <p>第14回：日本における再生産構造の変化</p> <p>第15回：演習。まとめ</p> <p>定期試験</p> | | | |
| <p>テキスト：</p> <p>毎回、授業資料を作成、配布する。</p> | | | |

参考書・参考資料等

『概説世界経済史Ⅰ、Ⅱ』 ロンド キャメロン、ラリー ニール（Rondo Cameron, Larry Neal）、速水 融訳。東洋経済新報社、2013年

『概説日本経済史 近現代』三和良一著。東京大学出版会、2012年

『経済で読み解く世界史』宇山卓栄著。扶桑社文庫、2019

『日本の経済発展』南亮進著。東洋経済新報社、2002年

ほかには授業内容に応じて適宜に紹介する。

学生に対する評価

出席率が70%以上のうえで、学期末試験、および各部分のミニレポートに基づき総合的に評価する。予習と復習にそれぞれ1時間以上が望ましい。身近あるいは地域の経済現状をみながら学習を進めるという科目設定のため、常に周りの変化に注目するよう指導。評価する。クラスルームにおいては講義出席を確認したり、課題を課しレポートを提出したりする。

| | | | |
|---|----------------------------------|--------------|----------------|
| 授業科目名： 経済史 2 | 教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目： 選択 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名： 房 文慧 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科および指導法 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>先進諸国の経済発展と比較しつつ、日本の経済成長を中心にした講義を行う。 日本経済における繁栄を支えた原動力およびその衰退を招いた要因を分析し、過去200年以上 続いてきた世界経済の中心がいかにか絶えず移動してきたかを理解することを学習する。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、日本が近代的社会へと移行する過程を探り、どのように経済成長を遂げたのか、 その中で起こった構造変化（例えば産業革命、都市化、労働市場の変化など）を理解する。 また、日本の経済成長を他国（特に西洋諸国）と比較することで、独自の成長モデルや課題を 浮き彫りにし、日本の経済成長の特徴を明確にする。大正期から、昭和時代にかけて、日本経 済がどのように成長し、戦後の復興や高度経済成長を経て、世界的に重要な経済大国となっ たのかを探求する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：1900年代の日本経済 第3回：第1次世界大戦 第4回：第1次世界大戦とその経済史的意義 第5回：1920年代の日本経済 第6回：昭和恐慌の打撃 第7回：高橋財政とその意義と限界 第8回：第2次世界大戦と経済社会 第9回：第2次世界大戦と日本経済 第10回：戦後の経済改革 第11回：経済復興期 第12回：高度経済成長の光と陰 第13回：高度経済成長の光と陰 とくに環境問題 第14回：平成時代を経て新しい時代へ 第15回：まとめ（演習などで）</p> <p>定期試験</p> | | | |

テキスト：

毎回、授業資料を作成、配布する。

参考書・参考資料等

『概説世界経済史Ⅰ、Ⅱ』 ロンド キャメロン、ラリー ニール（Rondo Cameron, Larry Neal）、速水 融訳。東洋経済新報社、2013年

『概説日本経済史 近現代』三和良一著。東京大学出版会、2012年

『経済で読み解く世界史』宇山卓栄著。扶桑社文庫、2019

『日本の経済発展』南亮進著。東洋経済新報社、2002年

ほかには授業内容に応じて適宜に紹介する。

学生に対する評価

出席率が70%以上のうえで、学期末試験、および各部分のミニレポートに基づき総合的に評価する。予習と復習にそれぞれ1時間以上が望ましい。身近あるいは地域の経済現状をみながら学習を進めるという科目設定のため、常に周りの変化に注目するよう指導。評価する。クラスルームにおいては講義出席を確認したり、課題を課しレポートを提出したりする。

| | | | |
|--|---|-------------|----------------------------|
| 授業科目名：哲学1 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 井西 弘樹 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>哲学とはどのような学問であるのかについて概説を行う。哲学的な問題意識について、おおまかなイメージを持てるようになることが目標となる。さらに、特定の哲学的問題に対して、それぞれの哲学者がどのような応答をしているのかについても理解できるようになってほしい。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>この授業では、哲学とはどのような学問であるのかについて入門的な解説を行う。紀元前六世紀頃に古代ギリシアで始まった哲学は、今もなお刺激的な問いをわれわれに投げかけている。この授業では、哲学の歴史そのものではなく、歴史の中で提出されてきたさまざまな哲学的問題を紹介することで、哲学的に考えることの面白さを伝えたい。「私と他人が見ている世界は本当に同じ世界なのか」、「確実な知識は存在するか」、「人間は自由意志をもつか」など、簡単には答えが出そうにない問題について、考察の手がかりとなるような議論を紹介する。ときに抽象度の高い内容となることが予想されるが、具体例を交えながら可能なかぎり分かりやすい解説を行いたい。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：導入</p> <p>第2回：第一章「意識・実在・他者」</p> <p>第3回：第一章の補足（大森荘蔵の他者論）</p> <p>第4回：第二章「記憶と過去」</p> <p>第5回：第二章の補足（大森荘蔵の過去論）</p> <p>第6回：第三章「時の流れ」</p> <p>第7回：第四章「私的体験」</p> <p>第8回：第五章「経験と知」（帰納法の問題）</p> <p>第9回：第五章の補足（演繹法と反証主義）</p> <p>第10回：第六章「規範の生成」</p> | | | |

第11回：第七章「意味の在りか」

第12回：第八章「行為と意志」

第13回：第九章「自由」（決定論と自由）

第14回：第九章の補足（フランクファートの自由意志論）

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

野矢茂樹『哲学の謎』講談社現代新書、1996.

参考書・参考資料等

岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波ジュニア新書、2003.

岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』有斐閣、1975.

学生に対する評価

期末試験による評価を基本とするが、出席と参加態度も加味する。

| | | | |
|--|---|-------------|-----------------|
| 授業科目名：哲学2 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 井西 弘樹 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生命倫理学や環境倫理学に関する諸問題について学び、現代社会が直面する問題について知識を深めることが、授業の目的である。また、具体的な倫理学的問題について考えることを通じて、倫理学一般への入門としたい。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>科学技術や産業社会の発展に伴って、私たちは以前には考えられることのなかったさまざまな倫理的問題に直面している。例えば、脳死の問題は、われわれに死とは何かについての再考を迫り、環境破壊は、人間中心の世界観の限界を示しつつある。こうした生命や自然に関する倫理的問題を考察するのが、生命倫理学や環境倫理学と呼ばれる学問分野である。この授業では、これらに関する概説を行うことで、現代社会が直面する諸問題についての知識を深めることを目指す。さらに、生命や自然に関する具体的な問題を考えることを通じて、倫理学の発想や考え方についてもおおまかな理解を得ることを狙いとする。</p> <p>授業では、最初に生命倫理の議論を紹介した後で、動物倫理について解説する。その後、自然と人間のあいだのあるべき関係について検討する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：導入</p> <p>第2回：倫理学の基礎理論</p> <p>第3回：医療者の倫理</p> <p>第4回：インフォームド・コンセント</p> <p>第5回：生殖医療</p> <p>第6回：遺伝子技術</p> <p>第7回：終末期医療</p> <p>第8回：移植医療</p> <p>第9回：種差別</p> <p>第10回：肉食と動物実験</p> | | | |

第11回：動物倫理に関する映像資料の鑑賞

第12回：土地倫理

第13回：世代間倫理

第14回：地球温暖化

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理』ちくまプリマー親書、2011.

伊勢田哲治、なつたか『マンガで学ぶ動物倫理』化学同人、2015.

加藤尚武『環境倫理学のすすめ（増補新版）』丸善出版、2020.

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021.

学生に対する評価

期末試験による評価を基本とするが、出席と参加態度も加味する。

| | | | |
|---|---|-------------|----------------------------|
| 授業科目名： 倫理思想史1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 井西 弘樹 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>西洋の倫理学の歴史についておおまかな理解を得ることが目標となる。前期の授業では、「善とは何か」というテーマを中心にさまざまな哲学者の学説を紹介する。私たちが普段当たり前のものとして親しんでいる善という言葉が、いかに多義的でときには矛盾を孕んだものであるのかを理解できるようにする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>私たちはいつもなんらかの善を求めて生きている。例えば、何かを食べたいと思うのは、それが私にとって空腹を満たす善いことだからであり、困っているひとを助けようとするのもまたそれが善いことに思われるからだ。だが、このように私たちの身近にあふれる善という価値とは、そもそも何なのだろうか。そう考え始めると、途端に分からなくなるだろう。事実、倫理学と呼ばれる学問は、この問題をめぐってさまざまな解釈を提示し、議論を行ってきた。この授業では、二千年以上の伝統を誇る西洋の倫理学のうち代表的な理論について解説することで、「善とは何か」という問題が有する射程の広さを紹介したい。</p> <p>授業では、まず徳倫理学（アリストテレス）について説明する。その後、義務論（カント）、功利主義（ベンサム／ミル）の解説へと進み、最後に同情を道德の基礎とみなすショーペンハウアーの理論とそれに対するニーチェの批判を紹介する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：導入</p> <p>第2回：アリストテレス（幸福論）</p> <p>第3回：アリストテレス（正義論）</p> <p>第4回：アリストテレス（友愛論）</p> <p>第5回：カント（善意志）</p> <p>第6回：カント（定言命法）</p> <p>第7回：カント（意志の自律）</p> <p>第8回：ベンサム（最大多数の最大幸福）</p> <p>第9回：ミル（他者危害原則）</p> | | | |

第10回：ミル（行為功利主義と規則功利主義）

第11回：ショーペンハウアー（カント倫理学への批判）

第12回：ショーペンハウアー（同情倫理）

第13回：ニーチェ（同情批判）

第14回：ニーチェ（貴族道徳と奴隷道徳）

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

田中潤一編『イチからはじめる道徳教育』ナカニシヤ出版、2017.

品川哲彦『倫理学の話』ナカニシヤ出版、2015.

学生に対する評価

期末試験による評価を基本とするが、出席と参加態度も加味する。

| | | | |
|---|---|-------------|----------------------------|
| 授業科目名： 倫理思想史2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 井西 弘樹 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 西洋の倫理学の歴史について、おおまかな理解を得ることが目標となる。後期の授業では、「正義とは何か」というテーマを中心にさまざまな哲学者の学説を紹介する。 | | | |
| 授業の概要 人間はこれまで互いに寄り集まり、社会をかたちづくることによって、さまざまな困難を克服してきた。だが、社会や共同体は、それを構成する人々に利益をもたらすばかりでなく、さまざまな不利益をももたらしてきた。そうした不利益をできるかぎり取り除き、誰もが生きやすい「公正な」社会を目指すことは、私たちにとって重要な課題であると言える。ところで、そもそも公正な社会は、どのような仕方で実現されるのだろうか。この点を考える際の手がかりとなるのが、正義論である。この授業では、正義論の歴史を概観することで、社会のあるべき姿について検討したい。 授業では、古代ギリシアにおける正義論を概観したあとで、現代の正義論に影響を与えた社会契約論について解説する。その後で、現代の正義論の代表的論客であるジョン・ロールズのリベラリズムと、それに対する批判的応答であるリバタリアニズムおよびコミュニタリアニズムについて紹介する。 | | | |
| 授業計画 第1回：導入 第2回：古代ギリシアの正義論（プラトン） 第3回：古代ギリシアの正義論（アリストテレス） 第4回：古代ギリシアの正義論（トゥキュディデス） 第5回：社会契約論（ホッブズ） 第6回：社会契約論（ロック） 第7回：ロールズの正義論（原初状態） 第8回：ロールズの正義論（正義の二原理） 第9回：ロールズの正義論（功利主義批判） 第10回：ロールズの正義論（善に対する正の優先） | | | |

第11回：リベタリアニズムの分類
第12回：リベタリアニズム（ノージック）
第13回：コミュニタリアニズム（サンデル）
第14回：コミュニタリアニズム（マッキンタイア）
第15回：まとめ
定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

神島裕子『正義とは何か』中公新書、2018.

品川哲彦『倫理学の話』ナカニシヤ出版、2015.

学生に対する評価

期末試験による評価を基本とするが、出席と参加態度も加味する。

| | | | |
|---|---|-------------|--------------------------------|
| 授業科目名：キリスト 教史1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 丸島 宏太 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマは、キリスト教の生成・発展と西欧世界の形成である。西欧世界を理解する上で欠くことのできない要因が、キリスト教である。本講ではキリスト教の思想・哲学よりはむしろ、その2000年にわたる歴史を政治的・社会的・地理的文脈の中でとらえることを目指す。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>講義の範囲はキリスト教の誕生から宗教改革前夜までである。西欧世界におけるキリスト教の拡大・定着過程、さらにはその発展の中に見られる戦争観・平和観にも着目する。単にキリスト教の歴史を紐解くに留まらず、広く現代的な問題を考えるための材料を提供する。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：キリスト教誕生の舞台</p> <p>第2回：キリスト教の源流としてのユダヤ教</p> <p>第3回：時代背景としてのローマ帝国</p> <p>第4回：キリスト教の誕生</p> <p>第5回：ローマ帝国におけるキリスト教の拡大と迫害</p> <p>第6回：キリスト教、ローマ帝国の国教となる</p> <p>第7回：異端と正統、東方教会と西方教会</p> <p>第8回：フランク王国とキリスト教</p> <p>第9回：オットー大帝の戴冠</p> <p>第10回：中世世界における王権と教皇</p> <p>第11回：キリスト教と民衆</p> <p>第12回：歴史上の十字軍</p> <p>第13回：聖戦、十字軍はいかに正当化されたか</p> <p>第14回：揺らぐ教皇権</p> <p>第15回：教会内部からの改革の声</p> <p>定期試験</p> | | | |
| テキスト | | | |

用いない

参考書・参考資料等

松本宣郎編『キリスト教の歴史1 初期キリスト教～宗教改革』（山川出版社）

高校の世界史教科書は補助手段として役に立つ。高校で使う世界史図説や歴史地図のようなものも有用である。

学生に対する評価

期末テストを最重視するが、授業中に随時、授業にたいする感想や質問、要望などを書いてもらい、評価の補助とする。

| | | | |
|--|---|-------------|--------------------------------|
| 授業科目名：キリスト 教史2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 丸島 宏太 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマは、近世以降の宗派分裂と世俗権力の関係である。宗教改革を契機としたカトリック対プロテスタントの対立が近世以降の西欧世界の展開に及ぼした影響、大航海時代にはじまるグローバル化とキリスト教の関連、主権国家体制と宗派对立の関係の解明を旨とする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>宗教改革前後から16/17世紀近代国家誕生のころまでのキリスト教史を中心に扱う。宗教改革は近代世界の出発点とか、世俗化の出発点とか言われることもあるが、もともとは腐敗しつつあったキリスト教界の立て直し運動としたはじまったものである。しかし、統一世界であるはずのキリスト教世界は、ここから世俗権力と結びつきながら多元的に分離していく。世俗権力の命令と宗教的信念が衝突するときどうするかという大問題も歴史の中で考えてみたい。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：宗教改革の宗教的・社会的背景</p> <p>第2回：ルター対ローマ教会</p> <p>第3回：ルターと世俗権力、領邦教会制への道</p> <p>第4回：ルターと社会運動</p> <p>第5回：ツヴィングリとチューリヒの宗教改革</p> <p>第6回：カルヴァンとジュネーヴの宗教改革</p> <p>第7回：カルヴァンの教説</p> <p>第8回：拡大するカルヴァン派と宗教戦争</p> <p>第9回：レコンキスタ運動とスペインの統一</p> <p>第10回：対抗宗教改革とイエズス会</p> <p>第11回：キリスト教世界のグローバルな拡大とヨーロッパの略奪</p> <p>第12回：国王ヘンリ8世の離婚問題とイギリスの宗教改革</p> <p>第13回：国王至上権の確立とイギリス国教会の成立</p> <p>第14回：宗教戦争から世俗の戦争へ</p> <p>第15回：展望：キリスト教と近代国家</p> | | | |

定期試験

テキスト

用いない

参考書・参考資料等

松本宣郎編『キリスト教の歴史1 初期キリスト教～宗教改革』（山川出版社）

高柳俊一・松本宣郎編『キリスト教の歴史2 宗教改革以降』（山川出版社）

森田安一『図説 宗教改革』（河出書房新社）

G. S. サンシャイン著、出村彰・出村伸訳『はじめての宗教改革』（教文館）

高校の世界史教科書は補助手段として役に立つ。高校で使う世界史図説や歴史地図のようなものも有用である

学生に対する評価

期末テストを最重視するが、授業中に随時、授業にたいする感想や質問、要望などを書いてもらい、評価の補助とする。

| | | | |
|--|----------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：心理学1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：益谷 真 担当形態：単独 |
| 科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| <p>1) 人間の素朴な心の働きに関する科学的な基礎知識を学び、獲得した知識を他者に説明できる。</p> <p>2) 心理学の学術的な位置づけを理解し、科学的な思考方法で素朴な心理を考察できる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>心理学は人間の心理や行動を科学的に探究する学術研究分野である。しかし誰にも心があり、断片的な知識、素朴な思い込み、誤解や信念が、科学的な知識の獲得を妨げる。そこで本講義では、心理学の主な研究領域を一通り網羅しながら、受講者の根本的な問題である心の働きを客観的にみる態度を養う。そのために、まずは科学とは何か、心を科学するとは何か、から始めて、素朴な心の働きを主たるテーマにして、仮説思考、構成概念、モデル検討、実証性について身近な少テーマを採りあげて考察する。受講者は単に聴講して記憶・記録するだけでなく、新たに得た知識について自分でも考え、質疑を経て、考えた事を整理して他者に伝えることを数回求める。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| <p>第1回：授業ガイダンス（シラバス確認、学習方法、評価）</p> <p>第2回：暗黙知とクリティカル・シンキング</p> <p>第3回：学問の系譜と心理学の黎明</p> <p>第4回：心理学の発展と学際研究</p> <p>第5回：科学と科学技術</p> <p>第6回：素朴な心理のメタ認知</p> <p>第7回：信じる心と思い違い</p> <p>第8回：錯覚と知覚の情報処理モデル</p> <p>第9回：感覚の精神物理</p> <p>第10回：記憶と認知</p> <p>第11回：心の健康とストレス</p> <p>第12回：心の健康と心身相関</p> <p>第13回：感情の現象</p> <p>第14回：感情の喚起モデル</p> <p>第15回：感情の表出</p> | | | |

テキスト

教養の心理学を考える会（編）『素朴な心のサイエンス』北大路書房、平成5年

参考書・参考資料等

テキストの各章に示されている参考図書は図書館等で読む。その他、必要に応じて適宜、紹介する。

学生に対する評価

授業中に呈示された問いの回答を小テーマ（授業2～3回）毎に作成し、グーグル・クラスルームに提出する。併せて、授業中に呈示されたクイズの答えも提出する。成績は問いの回答で6割、クイズの回答で4割の配分で総合的に評価する。

| | | | |
|---|----------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：心理学2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：益谷 真 担当形態：単独 |
| 科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| <p>1) 人間の素朴な心の働きに関する科学的な基礎知識を学び、獲得した知識を他者に説明できる。</p> <p>2) 心理学の学術的な位置づけを理解し、科学的な思考方法で素朴な心理を考察できる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>心理学は人間の心理や行動を科学的に探究する学術研究分野であるが、誰にも心があり、断片的な知識、素朴な思い込み、誤解や信念が、科学的な知識の獲得を妨げる。そこで本講義では、心理学の主な研究領域を一通り網羅しながら、受講者の根本的な問題である心の働きを客観的にみる態度を養う。素朴な心の働きを主なテーマにして、身近な少テーマを採りあげて考察する。受講者は単に聴講して記憶・記録するだけでなく、新たに得た知識について自分でも考え、質疑を経て、考えた事を整理して他者に伝えることを数回求める。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| <p>第1回：授業ガイダンス（シラバス確認、学習方法、評価）</p> <p>第2回：性格の構成概念</p> <p>第3回：性格の計量</p> <p>第4回：性格のモデルの比較</p> <p>第5回：本能の構成概念と動物行動学</p> <p>第6回：遺伝の生物学的知識と行動の遺伝</p> <p>第7回：ヒューマン・ユニバーサルズ</p> <p>第8回：人間の認知の進化と発達段階</p> <p>第9回：合理的思考とアナロジー</p> <p>第10回：論理的思考とヒューリスティクス</p> <p>第11回：認知的バイアス</p> <p>第12回：確率判断とリスク判断</p> <p>第13回：メタ認知</p> <p>第14回：ステレオタイプと思い込み</p> <p>第15回：集団の心理</p> | | | |
| テキスト | | | |
| <p>教養の心理学を考える会（編）『素朴な心のサイエンス』北大路書房、平成5年</p> | | | |

参考書・参考資料等

テキストの各章に示されている参考図書は図書館等で読む。その他、必要に応じて適宜、紹介する。

学生に対する評価

授業中に呈示された問いの回答を小テーマ（授業2～3回）毎に作成し、グーグル・クラスルームに提出する。併せて、授業中に呈示されたクイズの答えも提出する。成績は問いの回答で6割、クイズの回答で4割の配分で総合的に評価する。

| | | | |
|--|---|-------------|------------------------|
| 授業科目名：社会科・公民科教科教育法 | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：釜本 健司 担当形態：単独 |
| 科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（中学校 社会科，高等学校 公民） | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の目標・内容・方法の考え方の基本を認識できる。 ・ 中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の授業や評価の設計方法を習得できる。 ・ 主権者として求められる公民としての資質・能力の育成に資する授業論をある程度活用した中等公民教育の指導計画を作成できる。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 本授業は，中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の目標・内容・方法を論じるとともに，優れた授業・評価事例の検討や指導計画の作成を通して，中等学校段階の公民授業の指導計画・学習評価の構成方法を学ぶものである。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：中等公民教育の基本的役割と現代的課題 | | | |
| 第2回：一般的な公民授業の特徴と課題 | | | |
| 第3回：中学校社会科公民的分野の優れた授業事例の検討（1）—政治学習— | | | |
| 第4回：中学校社会科公民的分野の優れた授業事例の検討（2）—経済学習— | | | |
| 第5回：中学校社会科公民的分野の優れた授業事例の検討（3）—社会的課題の学習— | | | |
| 第6回：高等学校公民の優れた授業事例の検討（1）—公共— | | | |
| 第7回：高等学校公民の優れた授業事例の検討（2）—倫理— | | | |
| 第8回：高等学校公民の優れた授業事例の検討（3）—政治・経済— | | | |
| 第9回：中等公民教育の授業づくりと教材構成の基礎 | | | |
| 第10回：学習指導要領における中学校社会科公民的分野高等学校公民の目標 | | | |
| 第11回：学習指導要領における中学校社会科公民的分野の内容 | | | |
| 第12回：学習指導要領における高等学校公民の内容 | | | |
| 第13回：中等公民授業における情報通信技術の活用 | | | |
| 第14回：指導計画の作成—学習者の認識・思考・学力の実態を視野に入れて— | | | |
| 第15回：中等公民教育における学習評価の考え方と実際 | | | |
| 定期試験 | | | |
| テキスト | | | |
| 社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版，2020年 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社，2018年
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』東京書籍，2019年

学生に対する評価

- (1) 期末試験の成績 25%
- (2) レポート（中学校社会科公民的分野または高等学校公民科の指導計画）の内容 30%
- (3) 授業中の取り組み状況 45%

| | | | |
|---|--|-------------|-----------|
| 授業科目名： 社会科・地理歴史科教 科教育法 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：宮菌衛 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 地理 歴史) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む) | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の歴史を踏まえて、各教科・分野の目標・内容及び学習指導の基礎・基本について概観するとともに、それらの教科の学習指導上の課題や問題点について論及し、議論する。それらを踏まえて、中学校・高校の授業を分析し、批判的に検討することができ、かつ学習指導計画を構想・説明することができる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>社会科は、戦後民主主義教育の中核的教科として1947年に誕生した戦後生まれの教科である。1989年の学習指導要領改訂により、高校社会科は地理歴史科と公民科に分割・解体されたが、小・中学校社会科とともに、民主主義社会の主権者育成を目指す重要な教科であることには変わりはない。今次の教育課程改訂に当たっては、育成すべき資質・能力を3つの観点から明確にし、社会科で発揮する見方・考え方を生徒に育むことが出来るように、問題解決的・探究的な学習を構想・実践する実践的指導力を育成することが求められている。本講義・演習では、このような観点から、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の目標・内容の理解を踏まえて、問題解決的・探究的な学習指導に向けた実践的指導力の基礎を養うことを中心とする。このために、講義・演習(討論・模擬授業等)を積極的に取り入れる。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：中等社会系教科—中学校社会科・高校地理歴史科—学習体験の振り返りと学習指導の課題</p> <p>第2回：中等社会系教科—中学校社会科・高校地理歴史科—の目標 振り返りレポート1</p> <p>第3回：中等社会系教科の歴史① —戦後教育改革と社会科の誕生(小中高校一貫の視点から) 振り返りレポート2</p> <p>第4回：中等社会系教科の歴史② —中等社会科の展開と高校社会科再編 振り返りレポート3</p> <p>第5回：中等社会系教科カリキュラム内容とその構造① 振り返りレポート4 —小校社会科カリキュラムとの関連を踏まえて—</p> <p>第6回：中等社会系教科カリキュラム内容とその構造② 振り返りレポート5 —中学校社会科と高校地理歴史科のカリキュラムの関係—</p> <p>第7回：教育改革と中等社会系教科の学習指導のポイント 振り返りレポート6</p> | | | |

| | |
|--|------------|
| <p>－資質・能力育成の重視と学習指導の関係,主体的・対話的で深い学び、ICT活用等－</p> | |
| 第8回：中等社会系教科の学習内容と学習指導① | |
| －中学校社会科地理的分野の場合 | 振り返りレポート7 |
| 第9回：中等社会系教科の学習内容と学習指導② | |
| －中学校社会科歴史的分野の場合 | 振り返りレポート8 |
| 第10回：中等社会系教科の学習内容と学習指導③ | |
| －中学校社会科地理歴史的分野の場合 | 振り返りレポート9 |
| 第11回：中等社会系教科の学習内容と学習指導④ | |
| －高校地理歴史の場合 地理総合と地理探究 | 振り返りレポート10 |
| 第12回：中等社会系教科の学習内容と学習指導⑤ | |
| －高校地理歴史の場合 歴史総合 | 振り返りレポート11 |
| 第13回：中等社会系教科の学習内容と学習指導⑥ | |
| －高校地理歴史の場合 日本史探究と世界史探究 | 振り返りレポート12 |
| 第14回：中学校社会科の学習指導計画の構想と検討 | 振り返りレポート13 |
| 第15回：高校地理歴史科の学習指導計画の構想と検討 | 振り返りレポート14 |
| 最終レポート提示定期試験 | |
| テキスト | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編(平成29年7月) ・高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史科編(平成30年8月 一部改訂) ・中平一義・茨木智志・志村喬編著『中等社会系教科教育研究～社会科・地理歴史科・公民科～』風間書房、2021 | |
| 参考書・参考資料等 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・加藤公明『わくわく論争！ 考える日本史授業』地歴社、1991 | |
| 学生に対する評価 | |
| 以下の観点から総合的に評価する。 | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の学びの「振り返りレポート」による評価 (30%) 2. 学習指導計画の構想(作品)による評価 (50%) 3. 毎回の授業への参加度による評価 (20%) | |
| フィードバックは以下の通り行う。 | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の「振り返りレポート」についてはその都度コメントを付して各受講者に返却する。 2. 学習指導計画の構想(作品)については、授業中でのコメント・助言を行うとともに、提出された作品についてはコメントを付して各受講者に返却する。 | |

| | | | |
|--|---------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名： 社会科・公民科指導法 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 石川 学 |
| | | | 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) | | |
| 授業のテーマ及び到達目標：林竹二の「授業論」を学ぶ。子供たちの可能性を知り、子供たちの生きる力を引き出す「授業」について知る。授業で生徒に教え生徒から学ぶために必要な「授業」の内容や方法について知る。生徒が「もっと学びたい」「授業がおもしろい」と反応する社会科・公民科の授業を創るためにはどうしたらいいのかについて知る。 | | | |
| 授業の概要：はじめに林竹二の授業を取り上げ、次に小・中・高の授業実践を紹介する。その中で、授業後の子どもたちや生徒たちの感想文を手がかりにして、授業の本質を考える。授業を受ける側とする側にどんな変化が起きているのかを知る。実際の授業の創り方、教材研究のし方について学ぶ。さらに、模擬授業を通して、実際の授業技術と方法についても学ぶ。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：林竹二の授業論①「授業の本質」 | | | |
| 第2回：林竹二の授業論②「教えることとは」 | | | |
| 第3回：林竹二の授業論③「学ぶこととは」 | | | |
| 第4回：社会科・公民科授業の実践例①(小学校高学年・社会) | | | |
| 第5回：社会科・公民科授業の実践例②(中学校・歴史) | | | |
| 第6回：社会科・公民科授業の実践例③(中学校・公民) | | | |
| 第7回：社会科・公民科授業の実践例④(高等学校・現代社会) | | | |
| 第8回：社会科・公民科授業の実践例⑤(高等学校・倫理) | | | |
| 第9回：教材研究とは何か | | | |
| 第10回：教材研究の実際 | | | |
| 第11回：模擬授業1 | | | |
| 第12回：模擬授業2 | | | |
| 第13回：評価について | | | |
| 第14回：社会科・公民科授業の実践例⑥(高等学校・倫理) | | | |
| 第15回：林竹二の授業論④「教育の根幹にあるもの」 | | | |
| 定期試験 | | | |
| テキスト | | | |
| なし | | | |

参考書・参考資料等

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』文部科学省(編集)2019

林竹二『授業・人間について』国土社、1973.

林竹二『教えることと学ぶこと』国土新書、1981.

林竹二『問いつづけて—教育とは何だろうか』径書房、1981.

林竹二『教育亡国』筑摩書房、1983.

学生に対する評価

成績は授業への参加の様子、模擬授業などの与えられた課題に対する取り組みの様子、毎回の授業に対する感想文の内容、定期試験によって評価する。授業の感想文は全体で共有し、授業者のコメントを返す。定期試験は評価とその理由を加えて返却する。

| | | | |
|--|--|-------------|-----------------------|
| 授業科目名： 社会科・地理歴史科指 導法 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：宮菌 衛 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 地理 歴史) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む) | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、3年次後期「社会科・地理歴史科教科教育法」での学習内容・経験を踏まえて、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の優れた授業実践記録から学ぶと共に、教材研究・単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルの学びを実践的に学ぶことを通して、社会科及び地理歴史科の学習指導法の基礎を身につけることを目指す。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>講義の到達目標及びテーマに示したように、本授業では中学校社会科及び高等学校地理歴史科の優れた授業実践記録から学ぶと共に、教材研究・単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルの学びを実践的に学ぶことを通して、社会科及び地理歴史科の学習指導法の基礎を身につけることを目指している。このために、1) 中学校社会科の地理的分野、歴史的分野、公民的分野の優れた先行実践記録(文字記録若しくは映像記録)や、高等学校地理歴史科の「地理総合」「歴史総合」等の構想・実践等から複数の事例を取り上げ、授業における教師と生徒の相互作用、生徒同士の学び合いから、生徒の社会認識過程や認識の特徴について分析、検討する。さらに、2) 中学校社会科および高等学校地理歴史科からそれぞれ1ないし2つの単元を選択して、教材研究・単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルに取り組む。これらの学習内容・学習活動を通して、学習過程における生徒の認識過程に関心を持つと共に、生徒理解を深め、社会科の学習指導の在り方について実践的指導力の基礎を培うことを目指す。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：中学校地理的分野・歴史的分野・公民的分野から、検討する先行実践記録を選択する。</p> <p>先行実践記録の分析・評価においては、以下の3点から考察する。</p> <p>①～授業のねらいと学習過程・学習指導・学習成果の関係～</p> <p>②～教師と生徒の相互作用、生徒の学び合いと認識形成過程～</p> <p>③～教材と学習内容の関係～</p> <p>第2回：地理的分野の先行実践記録を通しての授業分析・評価(1) 振り返りレポート1</p> <p>第3回：歴史的分野の先行実践記録を通しての実践分析・評価(2) 振り返りレポート2</p> <p>第4回：公民的分野の先行実践記録を通しての実践分析・評価(3) 振り返りレポート3</p> | | | |

| | |
|---|------------|
| 第5回：高等学校地理歴史科「地理総合」の事例分析・評価(1) | 振り返りレポート4 |
| 第6回：高等学校地理歴史科「歴史総合」の事例分析・評価(2) | 振り返りレポート5 |
| 第7回：中学校社会科の学習内容を選択して、単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルに取り組む(1)単元構想に取り組む | 振り返りレポート6 |
| 第8回：中学校社会科の学習内容を選択して、単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルに取り組む(2)模擬授業実践・授業分析と評価活動に取り組む | 振り返りレポート7 |
| 第9回：中学校社会科の学習内容を選択して、単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルに取り組む(3)授業改善に取り組む記 | 振り返りレポート8 |
| 第10回：高等学校地理歴史科「地理総合」の、単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルに取り組む(1)単元構想に取り組む | 振り返りレポート9 |
| 第11回：高等学校地理歴史科「地理総合」の、単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルに取り組む(2)模擬授業実践・授業分析と評価活動に取り組む | 振り返りレポート10 |
| 第12回：高等学校地理歴史科「地理総合」の、単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルに取り組む(3)授業改善に取り組む | 振り返りレポート11 |
| 第13回：高等学校地理歴史科「歴史総合」の、単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルに取り組む(1)単元構想に取り組む | 振り返りレポート12 |
| 第14回：高等学校地理歴史科「歴史総合」の、単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルに取り組む(2)模擬授業実践・授業分析と評価活動に取り組む | 振り返りレポート13 |
| 第15回：高等学校地理歴史科「歴史総合」の、単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAサイクルに取り組む(3)授業改善に取り組む | 振り返りレポート14 |
| 最終レポート 定期試験 15回までの講義・演習を通して獲得した知識・技能を生かして、単元計画と本時学習指導案を作成して作品として提出されたものを評価する | |

テキスト

- ・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編(平成29年7月)
- ・高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史科編(平成30年8月 一部改訂)
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会(令和2年3月)
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校地理歴史(令和3年8月)

参考書・参考資料等

- ・小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 中学校編』
(明治図書、2010)
- ・土屋武志・山下忍編著『日本史授業デザイン 思考力・判断力・表現力の育て方』
(明治図書、2014)
- ・江口勇治監修・編著『21世紀の教育にもとめられるか「社会的な見方・考え方」』
(帝国書院、2018)

- ・原田智仁編著『高校社会「歴史総合」の授業を創る』(明治図書、2019)
- ・『シリーズ 歴史総合を学ぶ 全3巻』(岩波新書、2022)

学生に対する評価

以下の観点から総合的に評価する。

1. 毎時間の講義の後に課す「振り返りレポート1～5」(50%)
2. 単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善のPDCAの取組成果 最終レポート(50%)
3. この他に、毎回の授業への参加度を加味する

フィードバックは以下の通り行う。

1. 毎回の「振り返りレポート」についてはその都度コメントを付して、各受講者に返却する。
2. 単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善の取組については、授業注のコメント・助言及び提出された作品にコメントを付して各受講者に返却する。

| 授業科目名：英語学1 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：酒井 啓史 担当形態：単独 |
|---|----------------------------------|--|------------------------|
| 科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語学 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、英語や日本語をはじめとする言語を「道具」としてではなく、「研究対象」として分析的に捉えるための方法論と理論的枠組みを概観する。その上で、私たちが日常的に無意識に使っている言語を多角的に分析し、そこに潜む法則や仕組みを見出すという言語学の営みを追体験する。これにより、言語以外の日常の様々な事象も分析的に捉える力を養うことを目指す。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、言語を通して人間への理解を深める分野である言語学（英語学）について概観する。具体的には、英語や日本語をはじめとした自然言語の多様な側面を捉えるための言語理論の解説を聞き、理解をした上で、実際の言語データにあたって分析・考察するという流れで進めていく。本講義で言語を分析的に捉えていくことは、実際に英語を運用する場面でも役に立つとともに、様々な物事を分析的にみていくことで一般化する力を養うことにもつながる。こうした力は言語にとどまらない幅広い領域で応用可能であり、本講義は学生の将来のキャリアに資する思考力と分析力の育成を目指す。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| 回 | 授業内容主題 | 授業内容概要 | |
| 1 | 言語学（英語学）とは何か | 言語学・英語学が解明したい究極的な目標を概観する。 | |
| 2 | 音声学・音韻論① （母音の種類と仕組み） | 言語音を作り出すメカニズムを概観し、母音の種類を中心にみる。 | |
| 3 | 音声学・音韻論② （子音の種類と仕組み） | 言語音を作り出すメカニズムを概観し、子音の種類を中心にみる。 | |
| 4 | 音声学・音韻論③ （音節とモーラ） | 音節とモーラという2種類の単位の違いを概観した上で、その観点から日英語間の違いをみる。 | |
| 5 | 音声学・音韻論④ （アクセントとイントネーション、リズム） | アクセントとイントネーション、リズムといった概念を概観した上で、日本語らしさと英語らしさは何に由来するのかについて理解する。 | |
| 6 | 形態論① （語形成に関わる主な仕組み） | 形態論が解明したい研究対象を示した上で、語形成に関わる主な仕組み（派生や複合等）を概観する。 | |
| 7 | 形態論② | 語形成における派生と複合に課される一般的制約を構造上及び意 | |

| | | |
|--|-----------------------------|---|
| | (派生と複合に課される一般的制約) | 味上の観点からみていく。 |
| 8 | 形態論③ (形態論と音韻論の関わり) | 語を構成する形態素が音韻的な違いや構造上の違いと関係していることを、連濁現象や母音交替現象の観察を通じて理解する。 |
| 9 | 生成統語論① (生成文法の言語観) | 生成文法の理論的枠組みを概観した上で、生成文法が想定する言語の構造的な側面をみていく。 |
| 10 | 生成統語論② (句構造規則と変形規則) | 人間言語の構造的側面が句構造規則と変形規則の組み合わせで捉えられることを、英語の助動詞システムを例に概観する。 |
| 11 | 生成統語論③ (Xバー理論) | 個別の句構造規則がより高次の一般規則であるXバー理論に統合できることを、代用表現を例にとり、概観する。 |
| 12 | 生成統語論④ (変形(移動)規則に課される制約) | 個別の変形(移動)規則の背後により高次の一般性の高い原理が見出していくことができることを、島の条件を例に概観する。 |
| 13 | 生成統語論⑤ (構造と意味) | 人間言語の構造と意味がどのように関係しているのかについて、代名詞の解釈を例にみていく。 |
| 14 | 英語史 | 現代英語はどのような変遷を経て現代英語になったのかについて、事例研究として大母音推移や大補文推移を例に概観する。 |
| 15 | まとめ | 本授業における内容の総括を行う。 |
| 定期試験 | | |
| テキスト | | |
| 三原健一・高見健一(編)(2013)『日英対照 英語学の基礎』くろしお出版, 東京. | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 西光義弘(編)(1999)『日英対照による英語学概論 増補版』くろしお出版, 東京. | | |
| 渡辺明(2009)『生成文法』東京大学出版会, 東京. | | |
| 家入葉子(2007)『ベーシック英語史』ひつじ書房, 東京. | | |
| 学生に対する評価 | | |
| 期末試験: 60%、練習問題演習: 20%、リアクションペーパー: 20% | | |

| 授業科目名：英語学2 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：酒井 啓史 担当形態：単独 |
|---|--------------------------------|--|------------------------|
| 科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語学 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、英語や日本語をはじめとする言語を「道具」としてではなく、「研究対象」として分析的に捉えるための方法論と理論的枠組みを概観する。その上で、私たちが日常的に無意識に使っている言語を多角的に分析し、そこに潜む法則や仕組みを見出すという言語学の営みを追体験する。これにより、言語以外の日常の様々な事象も分析的に捉える力を養うことを目指す。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講義では、言語を通して人間への理解を深める分野である言語学（英語学）について概観する。具体的には、英語や日本語をはじめとした自然言語の多様な側面を捉えるための言語理論の解説を聞き、理解をした上で、実際の言語データにあたって分析・考察するという流れで進めていく。本講義で言語を分析的に捉えていくことは、実際に英語を運用する場面でも役に立つとともに、様々な物事を分析的にみていくことで一般化する力を養うことにもつながる。こうした力は言語にとどまらない幅広い領域で応用可能であり、本講義は学生の将来のキャリアに資する思考力と分析力の育成を目指す。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| 回 | 授業内容主題 | 授業内容概要 | |
| 1 | 前期の振り返り (言語学 (英語学) とは) | 前期の復習として、言語学 (英語学) が明らかにしたいことを振り返りつつ、言語には構造的側面に加え、意味的側面や狭義の言語外能力も重要な働きをしていることを具体例に即して概観する。 | |
| 2 | 機能的構文論① (文の情報構造) | 人間言語は構造的側面に加え、その意味や機能、話し手や聞き手がどのように関係しているかも重要な役割を担っていることを、文の情報構造の観点から具体的に考察していく。 | |
| 3 | 機能的構文論① (視点) | 人間言語は構造的側面に加え、その意味や機能、話し手や聞き手がどのように関係しているかも重要な役割を担っていることを、話し手や聞き手の視点の観点から具体的に考察していく。 | |
| 4 | 語彙意味論① (語の意味関係) | 人間言語の意味的側面を語の意味の観点から、みていく。ここでは、具体例を取り上げ、語同士の意味関係を意味成分に分解しつつ、考察していく。 | |
| 5 | 語彙意味論② (動詞の意味と項構造) | 人間言語の意味的側面を語の意味の観点から、みていく。ここでは、動詞の意味がどのように言語の項構造に反映されるのかを語彙概念 | |

| | | |
|---|--------------------------------|---|
| | | 構造の観点から、具体的に考察していく。 |
| 6 | 認知言語学① (認知言語学の言語観) | 狭義の言語外能力である人間の一般認知能力と言語の関わりをみていくことで、認知言語学の理論的枠組み及び言語知識の概略を学ぶ。 |
| 7 | 認知言語学② (捉え方 (construal)) | 人間の一般認知能力である捉え方 (construal) が人間言語にどのように反映されているのかを概観する。 |
| 8 | 認知言語学③ (カテゴリー化とプロトタイプ、フレーム) | 人間は事物をどのように捉えているのかを具体例を通じて考察した上で、認知言語学の主要な道具立てであるカテゴリー化とプロトタイプ、フレームの必要性を概観する。 |
| 9 | 認知言語学④ (メタファーと使用基盤モデル) | 人間が事物を捉える際に、理解が難しい場合には何かに見立てて捉える場合があることを、具体例を通じてみた上で、メタファー理論を学ぶ。また、これまでみた事物の捉え方は実際の経験 (用例) を基盤にボトムアップ的に立ち現れたものであることを概観する。 |
| 10 | 認知言語学⑤ (構文文法) | ある事象をどのように捉えて切り取った上で、言語化するののかについて、英語の受動態や二重目的語構文等を取り上げて具体的に考察しつつ、捉え方と文法の関係を体系化した理論である構文文法を学ぶ。 |
| 11 | 語用論① (文脈における言語使用) | 言語が実際に使用される際に、実際にどのように解釈されるのかについて、皮肉を具体例として理解をする。 |
| 12 | 語用論② (協調の原理) | 言語でのコミュニケーションを支配する原則である協調の公理を概観し、それを破った際にでてくる含意について、具体的な会話文の分析を通じ、理解する。 |
| 13 | 語用論③ (ポライトネス) | 実際の言語使用で人間は情報を伝えながら人間関係に関するやり取りをしており、その際の方略を具体例の分析を通じて理解する。 |
| 14 | 進化言語学 | これまでやってきた言語理論が、ヒト固有の人間言語の本質を捉えたものであれば、種としてのヒトの言語能力の起源と進化を扱うことができるはずである。ここでは、言語進化研究の問題意識を紹介し、議論を深めていく。 |
| 15 | まとめ | 本授業における内容の総括を行う。 |
| 定期試験 | | |
| テキスト 三原健一・高見健一 (編) (2013) 『日英対照 英語学の基礎』 くろしお出版, 東京. | | |
| 参考書・参考資料等 野村益寛 (2014) 『ファンダメンタル認知言語学』 ひつじ書房, 東京. 加藤重広・澤田淳 (編) (2020) 『はじめての語用論－基礎から応用まで』 研究社, 東京. | | |
| 学生に対する評価 期末試験 : 60%、練習問題演習 : 15%、リアクションペーパー : 15% | | |

| | | | |
|---|-------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：英文法 1 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 荒木 陽子 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導に関する科目(中学校及び高等学校 英語) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語学 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>高校までに学習した英文法と語彙の知識を、「聴く・読む・書く・話す」などのスキルと関連付けて実際に運用できるようになることを目標とする。大学中級～上級向けの教材を用いて、その内容の理解度と各章で取り上げるトピックへの関心を高め、特に文法と表現に注意して正確に理解・表現できるよう練習する。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>英文法の習得を困難にする、日本語にはない概念や、日本語とは著しく異なる文・句の構造に特に注目し、日英語比較の観点から整理し理解することで、英語の論理や思考法を学ぶ。協働学習の手法を用いて、会話や文章など特定の文脈で文法がどのように使われるか観察しながら、英文法と語彙を正確に把握し自己表現できるようトレーニングする。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回： レベルチェック、既習事項の復習（文法用語の確認）</p> <p>第2回： 既習事項の復習（品詞）</p> <p>第3回： 既習事項の復習（基本の構文、目的語と補語）</p> <p>第4回： Words and sentences</p> <p>第5回： Verbs 現在進行形</p> <p>第6回： Verbs 一般動詞（現在、過去）</p> <p>第7回： Verbs 過去進行形</p> <p>第8回： Verbs 完了形</p> <p>第9回： Questions, negatives and answers、ミニテスト</p> <p>第10回： Modal verbs</p> <p>第11回： The passive</p> <p>第12回： The infinitive and the ing-form to 不定詞</p> <p>第13回： The infinitive and the ing-form 動名詞</p> <p>第14回： The infinitive and the ing-form 頻出する用法</p> <p>第15回： まとめ、ミニテスト</p> | | | |
| <p>テキスト</p> <p>Eastwood, John. 2019. <i>Oxford Practice Grammar Intermediate</i>. Oxford University Press.</p> | | | |

参考書・参考資料等

英和、和英、英英辞典は必須。毎回持参すること。Lea, Diana, and Jennifer Bradbery. 2020. *Oxford Advanced Learner's Dictionary*, 10th edition. Oxford University Press.

学生に対する評価

授業貢献(30%)、課題(30%)および試験(40%)の結果から総合的に評価する。課題や試験のフィードバックは、要点や間違い傾向を全体に周知することとし、希望者には個別に解説するので申し出てほしい。

| | | | |
|--|-------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：英文法2 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 荒木 陽子 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導に関する科目(中学校及び高等学校 英語) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語学 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>高校までに学習した英文法と語彙の知識を、「聴く・読む・書く・話す」などのスキルと関連付けて実際に運用できるようになることを目標とする。大学中級～上級向けの教材を用いて、その内容の理解度と各章で取り上げるトピックへの関心を高め、特に文法と表現に注意して正確に理解・表現できるよう練習する。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>英文法の習得を困難にする、日本語にはない概念や、日本語とは著しく異なる文・句の構造に特に注目し、日英語比較の観点から整理し理解することで、英語の論理や思考法を学ぶ。協働学習の手法を用いて、会話や文章など特定の文脈で文法がどのように使われるか観察しながら、英文法と語彙を正確に把握し自己表現できるようトレーニングする。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回： レベルチェック、前期試験の解説</p> <p>第2回： Nouns and articles 可算名詞、不可算名詞</p> <p>第3回： Nouns and articles 冠詞</p> <p>第4回： This, my, some, a lot of, all</p> <p>第5回： Pronouns</p> <p>第6回： Adjectives and adverbs 形容詞</p> <p>第7回： Adjectives and adverbs 副詞</p> <p>第8回： ミニテスト、Prepositions 場所</p> <p>第9回： Prepositions 時間</p> <p>第10回： Verbs with prepositions and adverbs</p> <p>第11回： Reported speech</p> <p>第12回： Relative clauses</p> <p>第13回： Conditionals and wish</p> <p>第14回： Linking words</p> <p>第15回： ミニテスト、まとめ</p> | | | |
| <p>テキスト</p> <p>Eastwood, John. 2019. <i>Oxford Practice Grammar Intermediate</i>. Oxford University Press.</p> | | | |

参考書・参考資料等

英和、和英、英英辞典は必須。毎回持参すること。Lea, Diana, and Jennifer Bradbery. 2020. *Oxford Advanced Learner's Dictionary*, 10th edition. Oxford University Press.

学生に対する評価

授業貢献(30%)、課題(30%)および試験(40%)の結果から総合的に評価する。課題や試験のフィードバックは、要点や間違い傾向を全体に周知することとし、希望者には個別に解説するので申し出てほしい。

| | | | |
|---|--------------------------------|--------------|-------------------------------------|
| 授業科目名： 英語の発音 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名：Southwick Brian 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語学 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 英語の音声の仕組みを理解し、子音と母音のそれぞれの音声学的な違いを正確に聞き取って発音できるようになることを目指す。 | | | |
| 授業の概要 主に英語の子音と母音の音声学的な特徴を理解し、それぞれの音をネイティブ・スピーカーから正確に聞き取って、発音する練習を毎回行う。リスニングの小テストを適宜実施する。 | | | |
| 授業計画 第 1 回：現代英語の標準発音 第 2 回：綴り字と発音 第 3 回：音素 第 4 回：子音の分類 第 5 回：閉鎖音 第 6 回：摩擦音 第 7 回：破擦音 第 8 回：鼻音 第 9 回：側音 第 10 回：半母音 第 11 回：強母音と弱母音 第 12 回：短母音 第 13 回：長母音 第 14 回：二重母音 第 15 回：弱母音と半弱母音 定期試験 | | | |
| テキスト 竹林滋・清水あつ子・斉藤弘子『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店, 2013 Mikihiko Sugimori et al., <i>English Sounds, English Minds</i> , 金星堂, 2012 | | | |

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

平常点（出席状況、授業への取り組み、課題提出、小テスト）40%、期末試験 60%

| | | | |
|--|--------------------------------|--------------|-------------------------------------|
| 授業科目名：英語の 発音 2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名：Southwick Brian 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語学 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 英語の音声学的な知識を踏まえて、アクセント、リズム、イントネーションなどの特徴を正確に聞き取り、発音できるようになることを目指す。 | | | |
| 授業の概要 英語の音節、音の連続、アクセント、リズム、イントネーションの特徴を学び、リスニング教材を使って聞き取りの練習を行う。英語の特徴を強調したアクセント、リズム、イントネーションで文章を音読する練習も行う。 | | | |
| 授業計画 第1回：音節 第2回：音節内の子音の結合 第3回：単語間の音連続 第4回：音の脱落 第5回：同化 第6回：英語のアクセント・日本語のアクセント 第7回：単語アクセントと複合語アクセント 第8回：句アクセント 第9回：文アクセント 第10回：強形と弱形 第11回：リズム（日本語のリズムと英語のリズム） 第12回：リズム（英語のアクセント型） 第13回：イントネーション（音調群と音調の種類） 第14回：イントネーション（音調の用法） 第15回：まとめと音読 定期試験 | | | |

| |
|---|
| テキスト |
| 竹林滋・清水あつ子・斉藤弘子『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店, 2013 Mikihiko Sugimori et al., <i>English Sounds, English Minds</i> , 金星堂, 2012 |
| 参考書・参考資料等 |
| 適宜紹介する。 |
| 学生に対する評価 |
| 平常点（出席状況、授業への取り組み、課題提出、小テスト）40%、期末試験 60% |

| | | | |
|--|---------------------------------|-------------|---------------------------|
| 授業科目名：英語文学 1 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 金山愛子 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科および教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語文学 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で書かれた文学作品の読解を通して、様々なジャンルや時代の英語表現を理解する。 2. 文学作品が映し出す歴史や社会、文化の多様な有り様を理解する。 3. イギリスに関係の深い代表的な作品とその作者について知識を獲得する。 | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>文学は社会を映す鏡であり、また時代の思想をリードする鑑ともなります。授業では思想・文学の流れについて大まかな見取り図を紹介することになります。英語で書かれた代表的な文学作品について理解し、社会や文化、そして人間をどのように描いているのかを具体的な作品を通して考察します。時代や文化によって異なる英語表現や、詩や戯曲、小説に特有な英語表現についても理解を深めます。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：イギリスの歴史と文化</p> <p>第2回：英語文学の書き手（1）：カズオ・イシグロ</p> <p>第3回：英語文学の書き手（2）：カズオ・イシグロの考える文学</p> <p>第4回：現代小説の発展と意識の流れ：ジェームズ・ジョイス、ヴァージニア・ウルフ</p> <p>第5回：二つの大戦とディストピア：ジョージ・オーウェル</p> <p>第6回：英詩に親しむ：比喻と詩の言葉</p> <p>第7回：子どもの文学誕生：ビアトリクス・ポター、ルイス・キャロル</p> <p>第8回：近代小説の誕生：ジョナサン・スウィフト</p> <p>第9回：女性作家の誕生：ジェーン・オースティン、シャーロット・ブロンテ</p> <p>第10回：大英帝国の成立と世紀末：チャールズ・ディケンズ、オスカー・ワイルド</p> <p>第11回：清教徒革命とキリスト教文学：ジョン・ミルトン、ジョン・バニヤン</p> <p>第12回：ルネサンスと演劇：ウィリアム・シェイクスピア</p> <p>第13回：シェイクスピアとその作品</p> <p>第14回：中世の文学とその時代（1）：「アーサー王伝説」と19世紀リバイバル</p> <p>第15回：中世の文学とその時代（2）：ジェフリー・チョーサー、『ベオーウルフ』</p> <p>定期試験</p> | | | |
| テキスト | | | |

白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』横浜市立大学新叢書（平成25年、春風社）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。

学生に対する評価

ブックレポート、期末試験、小課題を総合して評価する。

| | | | |
|--|-------------------------------|-------------|--------------------------------|
| 授業科目名：英語文学 2 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 荒木 陽子 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導に関する科目(中学校及び高等学校 英語) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語文学 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 英語圏（主としてアメリカ合衆国およびカナダ）で出版された文学作品に親しみ、それを歴史的コンテキストに位置付けて理解することができる。 | | | |
| 授業の概要 本講義は主としてアメリカ合衆国を中心に北米英語圏の代表的作家、文学作品を歴史に沿って紹介すること、そして作家や文学作品をそれらが生み出された時代の社会・文化的背景に位置づけるべく基礎知識を提供することを目的とする。また、合衆国の歴史をベースに、同時期にイギリス以外の英語圏、特にカナダでどのような文学が書かれていたのかを紹介する。批評家の意見に従うのではなく、それを知ったうえで、自らの視点で出典を「読みなおす」ことで幅広い教養を身につけたい。 講義では指定する教科書の他に、文学作品からの抜粋や、比較的親しみやすい映画化された関連作品を用いる。学んだ情報のなかから、自分で関心を持った作家・作家についてテーマを設定し、調査・発表し、レポートを提出することを求める。積極的な授業参加が必要となる。 | | | |
| 授業計画 第1回： イントロダクション、ヨーロッパ人の大陸発見とイギリスによる植民地化 第2回： 植民地時代 ピルグリム・ファーザーズ、ジョン・ウィンスロップ 第3回： 植民地時代 大覚醒以降 ジョナサン・エドワーズ 第4回： 独立～南北戦争 アメリカ独立戦争、フランクリン 第5回： 独立～南北戦争 アービング、ブラウン、クーパー 第6回： 独立～南北戦争 エマソン、ソロー 第7回： 独立～南北戦争 ポー、ホーソン、メルヴィル、カナダ文学の台頭 第8回： 金メッキ時代～第一次世界大戦 小テスト、トウェイン 第9回： 金メッキ時代～第一次世界大戦 クレイン、ドライザー 第10回： 金メッキ時代～第一次世界大戦 ショパン 第11回： ジャズ・エイジ、大恐慌、第二次世界大戦 ヘミングウェイ 第12回： ジャズ・エイジ、大恐慌、第二次世界大戦 フォークナー 第13回： ジャズ・エイジ、大恐慌、第二次世界大戦 フィッツジェラルド 第14回： 第二次世界大戦後の文学、オセアニアの英語文学 | | | |

第15回： まとめ、小テスト

テキスト

巽 孝之、宇沢 美子編『よくわかるアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、2020。2750円

参考書・参考資料等

遠藤泰生他編 『史料で読むアメリカ文化史』 (全5巻) 東京大学出版会、2005-2006.

亀井俊介 『アメリカ文学史講義』 (全3巻) 南雲堂、1997-2000.

渡辺利雄 『講義 アメリカ文学史』 (全5巻) 研究社、2007-2011.

学生に対する評価

授業内の数回行われる小テスト(40%)と発表(30%)、レポート(30%)を基本に、総合的に評価する。フィードバックはテストの結果や、発表・レポートへのコメントにて行う。7割以上出席しないと単位は出せない。

| | | | |
|---|---------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：文学研究 1 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：金山愛子 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科および教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語文学 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| <p>1. 文学作品を通じて、人間や世界に関する理解を深める。</p> <p>2. 原書購読により英語読解力を高める</p> <p>3. アクティブ・ラーニングを通じてテキストを立体的に理解し、コミュニケーション力を高める。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| ウィリアム・シェイクスピアの作品を当時の社会状況において概観し、円熟期の喜劇『十二夜』を映像を用いながら原書で読みます。英文テキストの精読、演劇的手法を使ったワークショップや演出ノートの作成により、登場人物の造形やイメージの組立て、筋立ての特徴の理解を深めます。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：シェイクスピアとその時代 | | | |
| 第2回：『十二夜』と作品に係るさまざまなトピック | | | |
| 第3回：『十二夜』第1幕第1場～第3場 講読と映像視聴 | | | |
| 第4回：『十二夜』第1幕第4場～第5場 ブランクバースのリズムと言葉によるイメージ | | | |
| 第5回：『十二夜』第1幕第5場 講読 キャラクターの造形 | | | |
| 第6回：『十二夜』の文体、リズム、イメージ、神話について | | | |
| 第7回：『十二夜』第2幕第1場～第3場 映像視聴 ディスカッション | | | |
| 第8回：『十二夜』第2幕第4場 講読と映像視聴 演出ノートを書く（準備） | | | |
| 第9回：『十二夜』第2幕第5場 講読 演出ノートを書く | | | |
| 第10回：『十二夜』第3幕第1場～第4場 講読と映像視聴 ダブルプロットについて | | | |
| 第11回：演劇的手法を用いたワークショップ | | | |
| 第12回：『十二夜』第4幕第1場～第3場 講読と映像視聴 道化と迷信 | | | |
| 第13回：『十二夜』第5幕第1場 講読と映像視聴 | | | |
| 第14回：『十二夜』第5幕 講読とディスカッション | | | |
| 第15回：『十二夜』に関する考察とディスカッション | | | |
| 定期試験は実施しない。 | | | |
| テキスト | | | |
| シェイクスピア、安西徹雄編注『大修館シェイクスピア双書 十二夜』大修館書店、1991年 | | | |

参考書・参考資料等

授業中に適宜配布する。

学生に対する評価

レポート、小テスト、授業への貢献度（翻訳、アクティブラーニング）を総合して評価する。

| | | | |
|---|-------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：文学研究 2 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名： 荒木 陽子 |
| | | | 担当形態： 単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導に関する科目(中学校及び高等学校 英語) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 ・英語文学 | | |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語で書かれたバイオグラフィーや短編小説を読み、まったくバックグラウンドを知らない作家、作品を読む際に必要なスキルを身に着ける。原典講読を通して、英語力のみならず、自主的に地道に辞書や参考文献を参照しながら、まったく知らない作家の作品を読み解く「忍耐力」を手に入れてもらうことも、目標になる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>アメリカ人作家Jack London (1876-1916)のバックグラウンドを学び、その中編小説<i>The Call of the Wild</i> (1903)を原文にて精読する。語りの視点、作品の地理的、歴史的、社会的、文化的背景、そして登場人物のエスニシティ、階級、ジェンダーなどにも配慮しながら考察し、最終レポートにまとめてもらう。英語運用能力を高めながら、未知の世界を探求したい。</p> <p>授業は担当者を決めて輪読する。担当者は単語リストを作成し、クラスメイトに配布し、輪読をリードできるように準備することが求められる。担当者の準備の不備や欠席により授業が成立しなくなるため、責任感をもって担当されたい。12回目、13回目はレポート草稿の準備、発表になる。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回： イントロダクション</p> <p>第2回： バイオグラフィーを読む</p> <p>第3回： 映画 <i>The Call of the Wild</i> (2020)</p> <p>第4回： <i>The Call of the Wild</i> 第一章</p> <p>第5回： <i>The Call of the Wild</i> 第二章</p> <p>第6回： <i>The Call of the Wild</i> 第三章</p> <p>第7回： <i>The Call of the Wild</i> 第四章</p> <p>第8回： <i>The Call of the Wild</i> 第五章</p> <p>第9回： <i>The Call of the Wild</i> 第六章</p> <p>第10回： <i>The Call of the Wild</i> 第七章</p> <p>第11回： <i>The Call of the Wild</i>、まとめ</p> <p>第12回： レポート執筆準備</p> <p>第13回： 発表</p> | | | |

第14回： 映像作品の意義 映画 *The Call of the Wild* (2020)を再考する

第15回： まとめ

テキスト

原典小説や訳は、他の物を使うとページ数がずれるので、ここに指定する。Jack London, *The Call of the Wild*, Sea Wolf Press, 2020 (ISBN: 1950435938)、ジャック・ロンドン『野生の叫び声』光文社、2007 (ISBN: 4334751385)。

参考書・参考資料等

クリス・サンダース監督『野生の叫び声』 (DVD) Happinet, 2021。

*英和、和英等の辞書が必要になる。インターネット接続が必要なスマートフォンではなく、紙媒体か電子辞書を用意すること。

学生に対する評価

輪読の際の準備の状況、ハンドアウト作成などの授業貢献 (30%)、発表 (30%)、レポート (40%) を基本として、総合的に評価する。フィードバックは発表やレポートへのコメントとして行う。